

地理歴史 科 1 年		地理総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	スポーツ・進学	コース	単位数 2単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE2023 (帝国書院), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論しようとする。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容「知識・技能」：「思考・判断・表現」：「主体的に学習に取り組む態度」＝ 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解する。 地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付ける。	○	○		4
	5		2 地図の役割と種類	○	○	○
6	【1学期中間テスト】 第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解する。 グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解する。	○	○	○	3
	7		2 グローバル化する世界	○	○	○
8	【1学期期末テスト】 第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活	地形が人々の生活に与える影響を理解する。 気候が人々の生活に与える影響を理解する。	○	○	○	7
	9		2 世界の気候と人々の生活	○	○	○
10	【2学期中間テスト】 2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解する。 オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。	○	○	○	5
	11		追及事例 自然1 オセアニア	○	○	○
12	追及事例 自然2 東南アジア	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。	○	○	○	4
	1		【2学期期末テスト】 第3部 第1章 1 日本の自然環境	○	○	○
2		2 地震・津波と防災	○	○	○	2
	3	3 火山災害と防災	○	○	○	2
3		4 気象災害と防災	○	○	○	2
		5 自然災害への備え	○	○	○	3
	【学年末テスト】					

※学習状況により、進捗・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 1 年		地理総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2023 (とうほう), デジタル準拠ノート 高等学校新地理総合 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論しようとする。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容「知識・技能」：「思考・判断・表現」：「主体的に学習に取り組む態度」＝ 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	第1部 第1章 1 地球上の位置と時差	緯度・経度の仕組みや生活に与える影響を理解する。	○	○		4
5	2 地図の役割と種類	地図や地理情報システムの仕組みを理解し、技能を身に付ける。	○	○	○	4
【1学期中間テスト】						
6	第1部 第2章 1 現代世界の国家と領域	日本の位置・領域の特徴や、領土をめぐる問題について理解する。	○	○	○	3
7	2 グローバル化する世界	グローバル化に伴い、世界の国々を結びつける要素の変化について理解する。	○	○	○	6
【1学期期末テスト】						
8	第2部 第1章 1 世界の地形と人々の生活	地形が人々の生活に与える影響を理解する。	○	○	○	7
9	2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解する。	○	○	○	4
10	10					
【2学期中間テスト】						
11	2 世界の気候と人々の生活	気候が人々の生活に与える影響を理解する。	○	○	○	5
12	追及事例 自然1 オセアニア	オセアニアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。	○	○	○	4
12	追及事例 自然2 東南アジア	東南アジアの自然環境が、人々の生活や産業に与える影響を理解する。	○	○	○	4
【2学期期末テスト】						
1	第3部 第1章 1 日本の自然環境	日本の地形や気候の特徴を学び、形成要因や地域差を理解する。	○	○	○	3
2	2 地震・津波と防災	地震の種類と特徴、地域で異なる震災の被害について理解する。	○	○	○	2
2	3 火山災害と防災	火山の分布、恵み、災害の特徴を学び、共生する自治体の取り組みを理解する。	○	○	○	2
3	4 気象災害と防災	地域で異なる気象災害を学び、台風による水害や大雪による雪害の影響と取り組みを理解する。	○	○	○	2
3	5 自然災害への備え	災害の被害を軽減するための取り組みを学び、被災地における自助・共助・公助を理解する。	○	○	○	3
【学年末テスト】						

※学習状況により、進捗・内容を変更することがあります。

地歴公民科 1年 歴史総合 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	歴史総合	対象	スポーツ, 進学	コース	単位数	2 単位
教科書	歴史総合			出版社	実教出版	
副教材						

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・高校の歴史学習に積極的に取り組む姿勢を養い、以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ・空間的な広がりや自己との関係性を意識した学習へと視野を広げる。 ・過去の事象を考察するために、資料を活用する学習を通して、歴史の叙述には、諸資料の検証と論理性などが求められることを意識する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。 ・資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代化, 国際秩序の変化や大衆化, グローバル化などの歴史の変化と, 日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し, 表現する。 ・複数の資料の関係や異同に着目して, 資料から読み取った情報の意味や意義, 特色などを考察し, 表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校社会科における学習の成果を生かし, 必履修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的, 歴史的な考察の方法やその特質について, 主体的に理解を深める。
評価の方法	定期考査 学力テスト	定期考査 学力テスト	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容: 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点: a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1章 近代化への胎動 1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 3. 幕政の改革と東アジア世界 第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」 4. イギリス産業革命とアメリ	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習の体験学習をする。 ・17世紀, 東アジアの体制を理解する。 ・商品作物の生産と流通が, 国内外に与えた影響を理解する。 ・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたか理解する。 ・諸国の関係などを基に, 18世紀とその前後の世界 	○	○	○	1
			○	○	○	10

4	<p>ガイダンス</p> <p>第1章 近代化への胎動</p> <p>1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動</p> <p>2. 江戸時代の生産・流通と諸改革</p> <p>3. 幕政の改革と東アジア世界</p> <p>第2章 欧米の市民革命と「西洋の衝撃」</p> <p>4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争</p> <p>5. フランス革命とウィーン体制</p>	<p>・予習復習の体験学習をする。</p> <p>・17世紀, 東アジアの体制を理解する。</p> <p>・商品作物の生産と流通が, 国内外に与えた影響を理解する。</p> <p>・欧米諸国の接近に対して日本と清はどのような対応をしたか理解する。</p> <p>・諸国の関係などを基に, 18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。</p> <p>・フランス革命とウィーン体制で, 政治体制はどのように変化していったのかを理解する。</p>	○	○	○	○	1
5	<p>6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立</p> <p>7. オスマン帝国の衰退とロシア</p> <p>一学期中間考査</p> <p>8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国</p> <p>9. 江戸幕府の滅亡</p> <p>第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成</p>	<p>・領土拡大の過程で, アメリカ合衆国ではどのような問題が生じたのかを理解する。</p> <p>・東方問題を通じて, ロシアやオスマン帝国にはどのような変化が生じたのかを理解する。</p> <p>・アヘン戦争で東アジア諸国はどのような対応をせまられたのかを理解する。</p> <p>・将軍や各藩はどのような政治体制をつくらうとしたのかを理解する。</p>	○	○	○	○	10
6	<p>10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一</p> <p>11. 明治政府の諸改革</p> <p>12. 日本のアジア外交と国境問題</p> <p>13. 自由民権運動と大日本帝国憲法</p> <p>第4章 帝国主義の時代</p> <p>14. 帝国主義の時代へ</p> <p>15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争</p> <p>16. 日清戦争後の東アジア</p> <p>17. 日露戦争と東アジアの変動</p> <p>18. 日本の産業革命</p> <p>一学期期末考査</p>	<p>・19世紀のイギリスとフランスの繁栄, イタリアとドイツが統一した経緯を考え理解する。</p> <p>・明治政府は, どのような国づくりをすすめたのか考え理解する。</p> <p>・日本の北方, 南方国境の問題や台湾・琉球などどのように国境を画定し, 清や朝鮮とどのような関係を築いてきたか考え理解する。</p> <p>・自由民権運動がめざしたのは, どのような国家だったのか。政党, 立憲国家について考え理解する。</p> <p>・欧米諸国は, アフリカと太平洋の分割など, なぜ帝国主義の政策をすすめたのか考え理解する。</p> <p>・日清戦争は, 何を目的にはじまったのか考え理解する。</p> <p>・日本と中国や朝鮮との関係, 日本人の意識, 清をとりまく国際情勢の変化について考え理解する。</p> <p>・日露戦争と韓国侵略, 辛亥革命とその影響を考え理解する。</p> <p>・産業革命によって日本の経済と社会, 都市と農村の問題など, 産業の発展と社会運動について考え理解する。</p>	○	○	○	○	1
7	<p>19. 第一次世界大戦</p>	<p>・第一次世界大戦は, なぜ世界を巻きこむ戦争になったのか考え理解する。</p>	○	○	○	○	12
8	<p>20. ロシア革命とソ連の成立</p>	<p>・ソヴィエト政権はなぜ人々から支持されたか, 革命</p>	○	○	○	○	1

10	21. 米騒動と大正デモクラシー	が成功した背景にあったものを考え理解する。	○	○	○	14
	22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制	・米騒動のなかで人々は何を求めたのか考え理解する。	○	○	○	
	23. アジアの民族運動	・大戦後の国際秩序はどのような目的で構築されたのか考え理解する。	○	○	○	
	24. 第一次世界大戦後の欧米諸国	・第一次世界大戦後、アジア各地で民族運動が活発になったのはなぜか考える。	○	○	○	
	25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現	・第一次世界大戦後の欧米諸国にはどのような動きがみられたか理解する。	○	○	○	
	26. 世界恐慌と各国の対応	・社会運動をになった人々は、何を求めたのかを考え理解する。	○	○	○	
	27. ファシズムの時代	・世界恐慌は各国の経済や人々の生活にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○	
	<u>二学期中間考査</u>	・ヒトラーのひきいるナチ党は何を主張し、どのようにして政権をにぎったのかを考え理解する。	○	○	○	1
11	28. 満洲事変と軍部の対立	・日本はどのようにして国際的孤立の道をすすんでいったのかを考え理解する。	○	○	○	12
	29. 日中戦争と戦時体制	・中国との戦争は、なぜ長期化したのかを考え理解する。	○	○	○	
	30. 第二次世界大戦の勃発	・ヨーロッパでの戦いと、アジアの日中の戦争はどのようにしてむすびついたのかを考え理解する。	○	○	○	
	31. 第二次世界大戦の終結	・戦争は、いつどのようにして「終結」したのかを考え理解する。	○	○	○	
12	32. 国際連合の成立と冷戦	・国際連合は設立の目的を十分にはたせてきたのかを考え理解する。	○	○	○	1
	33. 日本占領と日本国憲法	・民主化政策によって、日本が戦前からかわったことは何だろうかを考え理解する。	○	○	○	
	34. 朝鮮戦争と日本	・連合国の対日占領方針は、朝鮮戦争によってどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○	
	35. 植民地の独立	・旧植民地は、どのように独立をはたしたのかを考え理解する。	○	○	○	
	36. 米ソ両陣営の動揺	・強大な軍事力をほこった米ソが、影響力を弱めていったのはなぜなのかを考え理解する。	○	○	○	
1	37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長	・冷戦は日本の政治と外交にどのような影響を与えたのかを考え理解する。	○	○	○	10
	38. 石油危機と世界経済	・石油危機以後の世界はどのような変化をみせたのかを考え理解する。	○	○	○	
2	39. 緊張緩和から冷戦の終息へ	・米ソの動きは冷戦の終結にどのようにかわったのかを考え理解する。	○	○	○	1
	40. 日本の経済大国化	・バブル経済はなぜ崩壊したのかを考え理解する。	○	○	○	
	41. 地域紛争と対立	・冷戦後の地域紛争の原因は何かを考え理解する。	○	○	○	
3	42. 国際秩序の変容	・グローバル化がすすむなかで、各国はどのような動きをみせたのかを考え理解する。	○	○	○	1
	<u>学年末考査</u>					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地歴科 1年		歴史総合		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	歴史総合	対象	特進	コース	単位数 2 単位
教科書	詳述歴史総合		出版社 実教出版		
副教材	最新世界史図説タペストリー〔二十一訂版〕 (帝国書院)				

1 学習の到達目標

近現代の歴史の変化に関わる諸事象を学ぶことを通して、次のような知識、技能、能力や態度を養う。

- ① 世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を磨く。
- ③ よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史の知識を身に付ける。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する力、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想する力、考察、構想したことを効果的に説明する力、それらを基に議論する力を身に付ける。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深める。
評価の方法	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト ワークシート	学習活動への姿勢 学習課題 ワークシート、ノート

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点、計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について理解する。			○	1
	[序章] 歴史の扉	・高校の歴史学習の動機づけと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身に付ける。	○	○	○	2
	[第4章] 帝国主義の時代	・帝国主義と同時期の欧米社会，列強の進出と植民地の形成，日清・日露戦争，アジア諸民族の独立運動・立憲革命に触れ，帝国主義政策の背景や特徴とその影響，列強間の関係の変容について理解する。	○	○	○	10
	【一学期中間考査】					【1】
5	[第5章] 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の緊密化，第一次世界大戦の展開，ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭，ナショナリズムの動向と国際連盟の成立に触れ，第一次世界大戦の背景と特徴，戦後の国際秩序や社会の変容，大衆社会の成立について理解する。	○	○	○	11
	【一学期期末考査】					【1】
6	[第6章] 経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌，ファシズムの伸長，日本の対外政策，第二次世界大戦の展開，国際連合の成立と国際経済体制の形成，冷戦の始まりとアジア諸国の動向に触れ，経済危機の背景と影響，国際協調体制の動揺とその要因，第二次世界大戦の特徴，戦後の日本社会と国際秩序の特徴，冷戦体制の成立について理解する。	○	○	○	10
	【二学期中間考査】					【1】
7	[第7章] 冷戦と脱植民地化	・冷戦期の地域紛争，対立の推移，第三世界の動向に触れ，地域紛争と冷戦の関係，第三世界の国々の地域連携，欧米やソヴィエト連邦の政策転換とその要因など国際政治の変容について理解する。	○	○	○	9
8	[第8章] 多極化する世界	・石油危機の特徴とその影響，冷戦末期の推移と終結，ヨーロッパとアジアの経済協力について触れ，先進工業国の経済の変容，冷戦の変容と終結の背景，経済的な地域協力の進展について理解する。	○	○	○	7
	【二学期期末考査】					【1】
9	[第9章] グローバル化と現代社会	・冷戦の終結と民主化，地域統合の拡大と地域紛争の拡散，世界のグローバル化について触れ，冷戦終結後の国際政治の変容と課題，経済の自由化や技術革新の影響，資源・エネルギー問題と世界経済の関係について理解する。	○	○	○	5
10						
11						
12						
1						
2						

3	現代的な諸課題の形成と展望 【学年末考査】	・現代的な諸課題について，歴史的経緯，背景や原因，結果や影響などに着目するとともに，地域間の比較や関連付けを通して，持続可能な社会の実現に資するための知識・技能・力・態度を養う。	○	○	○	3 【1】
---	-------------------------------------	---	---	---	---	---------------------

地歴公民 科 1 年		公共		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	公共	対象	スポーツ・進学	コース	単位数 2 単位
教科書	公共		出版社 東京書籍		
副教材	ライブ 2023 公共, 現代社会を考える (帝国書院) 公共ワークノート【デジタル】 (東京書籍)				

1 学習の到達目標

<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体として活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるべき、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べてまとめる。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断し、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論し、表現しようとする。	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会 2 民主主義とは 3 立憲主義とは	・年間進捗を確認し，体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 ・社会における意見や利害の調整，意思決定における民主主義の意義について理解する。 ・法の支配や近代立憲主義の意義について，歴史的背景もふまえながら理解し，立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察する。	○	○	○	1
5	4 人権保障の意義と展開 (一学期中間考査)	・公共的な空間における基本的原理の一つである，人間の尊厳と平等について，その意義，歴史的展開，現代の動向について理解する。また，日本国憲法の基本原理と基本的人権について理解する。	○	○	○	1
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち <テーマ1> 民主政治と政治参加 1 私たちの民主政治	・民意を反映した政治を実現するための現状と課題について，世論調査，投票率，世論調査と選挙結果の関連から理解し，国民投票のメリットとデメリットについて，多面的・多角的に考察し議論する。 ・政治の働き，民主主義について理解し，現在の民主主義の課題について考察する。	○	○	○	1
6	2 地方自治のしくみと役割	・地方自治の原則としくみ，地方財政のしくみと課題，住民参加の形態と意義について理解するとともに，地方自治の課題について考察する。	○	○	○	2
	3 国会のしくみと役割	・三権分立と国会の地位，国会の役割と権限，国会の構成と運営について，理解し，実際の政治の運営の現状と課題について考察する。	○	○	○	2
	4 内閣のしくみと役割	・内閣と国会との関係，内閣の役割と行政組織，行政国家化と行政改革について，実際の政治事象とも関連させながら理解し，今日の行政の課題について考察する。	○	○	○	2
7	5 政治参加と選挙 (一学期期末考査)	・政治参加の方法，民主政治と選挙制度，日本の選挙制度と課題について理解し，有権者の意思をよりよく反映するという視点から，日本の選挙制度について考察する。	○	○	○	3
	6 政党と利益集団	・政党の役割，政党政治，利益集団，政治資金にかかわる課題について理解する。	○	○	○	1
8	7 メディアと世論	・民主主義における世論の意義，メディアの世論への影響，インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解し，正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察する。	○	○	○	2
	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち <テーマ1>	・法と道徳や慣習などの規範の特性について，規制する対象や範囲，効力などの点から比較し理解する。	○	○	○	1

9	<p>第2章 法の働きと私たち</p> <p><テーマ1></p> <p>法や規範の意義と役割</p> <p>1 法と社会規範の役割</p> <p>2 法の成立と適用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共的な空間において、道徳やマナーに委ねる場合と、法的ルールによっている場合があることについて、事例をあげて考察する。 ・道徳を含む社会規範における法の特徴、法の役割、法の区分、特色について理解する。 ・法案の作成と提出、民事裁判と刑事裁判、裁判における法の適用、法の解釈の意味などについて理解し、民事裁判、刑事裁判の特色、法の適用と解釈、市民にも求められるリーガルマインドの意義について考察する。 		○	○	1
10	<p><テーマ2></p> <p>市民生活と私法</p> <p>1 市民生活と法</p> <p>2 多様な契約</p> <p>3 消費者の権利と責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私法の役割と意義に関連して、インターネットによる契約の特性や転売について理解し多面的・多角的に考察し議論する。 ・私法の性格、私法の三つの原則、過失責任の原則などについて理解し、公共の福祉とのかかわり、過失責任の原則の意義について考察する。 ・契約自由の原則、契約の種類、契約自由の原則の修正などについて理解する。 ・消費者契約の特色、消費者法制と消費者の権利、消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解し、消費者の権利とその尊重、自立支援について考察する。 		○	○	1
11	<p>(二学期中間考査)</p> <p><テーマ3></p> <p>国民の司法参加</p> <p>1 司法のしくみと役割</p> <p>2 刑事司法と司法参加の意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判員と死刑制度、死刑制度の合憲性と世論、国際社会における死刑制度について理解し、多面的・多角的に考察し議論する。 ・司法権とその独立、裁判制度のしくみ、違憲審査権について理解し、その意義について考察する。 ・刑事司法のしくみや原則、刑事司法の課題、裁判員制度や検察審査会制度について理解し、刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について考察する。 		○	○	1
12	<p>(二学期期末考査)</p> <p>第5章 国際社会のなかで生きる私たち</p> <p><テーマ1></p> <p>国際社会のルールとしくみ</p> <p>1 国際社会の成り立ち</p> <p>2 国際連合の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有限な資源を維持管理していくか、漁業をめぐる国際社会の課題を例に多面的・多角的に考察し、国家間の利害が錯綜する課題解決のためのルールや国際協力について理解する。 ・国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて理解し、国際社会におけるさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察する。 ・国際連盟、国際連合の成立とそのしくみ、国際連合における安全保障やさまざまな役割と課題について理解し、国連の安全保障に果たす意義と課題について考察する。 		○	○	1
1	<p><テーマ2></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器をめぐる世界の動きを、核拡散の現状、国連における核兵器禁止条約、INF 全廃条約の失効などから理解し、核軍縮について、多面的・多角的に考察し議論する。 		○	○	1

2	国際社会と平和主義					
	1 日本の平和主義と冷戦	・平和主義と日本国憲法第9条, 自衛隊と日米安全保障条約, 戦後日本の防衛政策について理解する。	○	○	○	2
	2 冷戦後の世界と日本	・冷戦後の世界の動き, 冷戦終結後の日本の安全保障政策, 自衛隊と海外派遣などについて理解し, 日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに, 今後の安全保障の課題について追究する。	○	○	○	2
	<テーマ3>					
	国際平和への課題	・主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について, 事例を手がかりに理解し, 人権保護のための他国や国際機関の武力介入について, 多面的・多角的に考察し議論する。		○	○	1
3	1 現代の紛争とその影響	・現代の紛争とその要因, 紛争の解決に向けた取り組み, 難民問題について理解する。	○	○	○	2
	2 平和な国際社会に向けて	・紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解する。	○	○	○	2
	(学年末考査)	・平和の意味, 外交を通じた平和の実現の意義, 日本の立場と役割について理解し, 平和憲法をもつ日本として, 国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか, 多面的・多角的に考察し議論する。	○	○	○	1

※学習状況により, 進度・内容を変更することがあります。

普通科 1年		公共		年間授業計画 (シラバス)		
科目名	公共	対象	特進	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校 公共 私たちがひらく未来・社会			出版社	清水書院	
副教材	ライブ! 2023 公共, 現代社会を考える (帝国書院), 公共ワークノート (清水書院)					

1 学習の到達目標

- ・人間と社会についての見方・考え方を養成する。
- ・現代の諸課題を追求したり解決したりする活動を行う。
- ・広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国会議員及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学期ごとに観点別評価を行い、最終的に学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」:「思考・判断・表現」:「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	学習確認ガイダンス 第2編 基本的人権の尊重 第1章 民主政治の原理 1 近代国家と立憲主義 file7 法の意義と役割 2 日本国憲法の成立 file8 憲法改正について考えよう	・個人の尊重と基本的人権の保障，法の支配や立憲主義という近代民主主義国家の基本的な原理を理解し，国民の自由や権利が保障されていることの意義を考察する。 ・日本国憲法の成立について，その歴史的背景と経緯について理解を深める。	○ ○	○ ○	○ ○	1 2
5	第2章 人権の尊重と日本国憲法 1 日本国憲法の三原理と人権保障 2 平和主義と国際社会 一学期中間考査 3 平等権 4 自由権 file9 多様化する社会の人権① file10 多様化する社会の人権②	・日本国憲法の三つの基本原理を踏まえ，平和主義と日本をめぐる安全保障に関する情勢を理解する。 ・日本国憲法が保障している基本的人権の内容を通して，政治制度との関わりについて考察し，個人の尊厳，自由，平等などの社会的価値について理解を深める。	○	○	○	17
6	5 社会権 6 参政権の保障と国務請求権 7 新しい人権 file11 多様化する家族について考えよう	・現代社会において，基本的人権を拡充するものとして主張されている新しい人権の内容を理解するとともに，国際社会における人権に関する諸条約の意義を考察する。		○	○	
7	8 グローバル化と国際人権 一学期期末考査					
8	第3編 現代の民主政治と社会参画 第1章 民主政治の成立と課題 1 自由民主主義の成立と危機	・民主社会の成立過程，現代社会の民主政治の仕組みと世界の政治制度について理解する。	○	○	○	9
9	2 現代の民主主義と課題 file12 世界の政治制度 3 世論の形成と民主社会 file13 情報モラルについて 4 政治参加と主権者（有権者） 5 選挙と政党 file14 選挙に行こう！	・民主政治における世論形成と政治参加の意義について理解し，主権者（有権者）として社会に関わる意識を高める。		○	○	
10	第2章 日本の政治機構 1 国会の役割としくみ 2 内閣と行政機関 二学期中間考査	・国民主権を中心とした立法，行政，司法の仕組みと課題を理解し，制度や機構の背景にある民主政治の考え方について多面的・多角的に考察する。	○	○	○	10

11	3 裁判所の役割としくみ 4 市民生活と司法参加 file15 刑罰・更正と死刑制度 5 地方自治と住民の生活 file16 外国人住民の多い街	・司法制度の仕組みと課題を理解し、よりよい司法の実現のために、国民が司法に参加する意義を考察する。 ・地方自治の仕組みを理解し、地方自治が民主政治の基盤となっていること、地域の課題について考察する。		○	○	
12	第3章 国際政治のしくみと役割 1 国際政治の成り立ち 二学期期末考査	・国際社会の変遷、人権、国家主権、国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割について理解し、国際社会が抱える課題を考察する。 ・冷戦後の国際社会の変化、冷戦後の軍縮や核兵器廃絶などに関する国際的な取り組みについて理解し、グローバル化が進展する国際社会の在り方や課題を多角的・多面的に考察する。	○	○	○	10
1	2 国際連合の設立とその役割 file17 国際連合の主要機関と課題 3 冷戦とその終焉 4 軍縮と安全保障 5 リージョナリズム 6 グローバル化と国家	・現代の国際紛争の諸要因について理解し、その対立を解消するために、多文化共生の観点から調整し協調することが国際政治に必要とされることを理解する。 ・	○	○	○	5
2	"1 現代の紛争 file18 パレスチナ問題について考えよう 2 多文化・多民族社会に向けて 3 移民と難民 file19 難民問題 4 日本の戦後外交と課題 file20 原爆の記憶とその継承 学年末考査	平和主義と国際協調の立場から、日本の安全保障や国際貢献の在り方について多面的・多角的に考察する。	○	○	○	
3			○	○	○	

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史探究	対象	スポーツ	コース	単位数 4 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史用語集 (A・B共用)』 (山川出版社) 『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社) 『2023年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に付ける。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行う。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a(知識・技能)、b(思考・判断・表現)、c(主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 日本文化のはじまり 2 農耕の開始 第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	・予習復習の体験学習をする。 日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 ・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。	○	○	○	13
5	2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 1学期中間考査	・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 ・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。 ・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。	○	○	○	14
6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長	・資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 ・遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。	○	○	○	17

	第Ⅱ部 中世					
	第5章 院政と武士の進出					
	1 院政の始まり					
	2 院政と平氏政権					
	第6章 武家政権の成立					
7	1 鎌倉幕府の成立と展開	・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。	○	○	○	2
	1 学期期末考査					1
8	学力テスト					
9	2 モンゴル襲来と幕府の衰退					
	3 鎌倉文化	・元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。	○	○	○	16
	第7章 武家社会の成長	・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	○	○	○	
	1 室町幕府の成立					
10	2 下剋上の社会	・幕府が衰退していった、原因と背景について学ぶ。	○	○	○	16
	3 室町文化	・室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	○	○	○	
	4 戦国の動乱	・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。	○	○	○	
	2 学期中間考査					
	第8章 近世の幕開け					
	1 天下人の登場					
11	2 豊臣政権と桃山文化	・織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。	○	○	○	16
	第9章 幕藩体制の成立と展開					
	1 江戸幕府の成立	・史料をまじえ、江戸初期の外交と鎖国に至るまでの経緯とメリット・デメリットを考える。	○	○	○	
	2 江戸初期の外交と文化					
	3 幕政の安定					
	4 経済の発展	・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	○	○	○	4
12	5 元禄文化	・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。	○	○	○	11
	2 学期期末考査					
1	学力テスト					
	第10章 幕藩体制の動揺					
	1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。	○	○	○	14
2	2 江戸幕府の衰退	・文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。	○	○	○	
	3 化政文化					
	第Ⅳ部 近代・現代					
	第11章 近世から近代へ					
	1 開国とその影響	・長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。	○	○	○	2
	2 幕府の滅亡と新政府の発足	・五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の掲示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。	○	○	○	
3	3 学期期末考査					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	日本史探究	対象	進学文系	コース	単位数	4 単位
教科書	『日本史探究 高校日本史』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集 (A・B 共用)』 (山川出版社)		『第 10 版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023 年度新課程 要点整理ゼミナール日本史』 (浜島書店)					

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に付ける。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行う。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各 100 点満点計 300 点満点で算出し、それを 3 で割った点数 (100 点法) を評点とします。学年末に評定 (5 段階) にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第 I 部 原始・古代 第 1 章 日本文化のあけぼの 1 日本文化のはじまり 2 農耕の開始 第 2 章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	・予習復習の体験学習をする。 日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 ・考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 ・大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。			○	13
5	2 飛鳥の朝廷 第 3 章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 1 学期中間考査	・資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 ・聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。 ・天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。	○	○	○	14
6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第 4 章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長	・資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 ・桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 ・遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。	○	○	○	17

	第Ⅱ部 中世					
	第5章 院政と武士の進出					
	1 院政の始まり					
	2 院政と平氏政権					
	第6章 武家政権の成立					
7	1 鎌倉幕府の成立と展開	・後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。 ・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。	○	○	○	2
	1 学期期末考査					1
8	学力テスト					
9	2 モンゴル襲来と幕府の衰退	・元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。	○	○	○	16
	3 鎌倉文化	・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。	○	○	○	
	第7章 武家社会の成長					
	1 室町幕府の成立	・幕府が衰退していった、原因と背景について学ぶ。	○	○	○	
10	2 下剋上の社会	・室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	○	○	○	16
	3 室町文化					
	4 戦国の動乱	・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。	○	○	○	
	2 学期中間考査					
	第8章 近世の幕開け					
	1 天下人の登場	・織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。	○	○	○	
11	2 豊臣政権と桃山文化					16
	第9章 幕藩体制の成立と展開					
	1 江戸幕府の成立	・史料をまじえ、江戸初期の外交と鎖国に至るまでの経緯とメリット・デメリットを考える。	○	○	○	
	2 江戸初期の外交と文化					
	3 幕政の安定	・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	○	○	○	
	4 経済の発展					
12	5 元禄文化	・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。	○	○	○	4
	2 学期期末考査					
1	学力テスト					
	第10章 幕藩体制の動揺	・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。	○	○	○	11
	1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	・文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。	○	○	○	14
2	2 江戸幕府の衰退					
	3 化政文化	・長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。	○	○	○	
	第Ⅳ部 近代・現代					
	第11章 近世から近代へ					
	1 開国とその影響	・五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。	○	○	○	
3	2 幕府の滅亡と新政府の発足					2
	3 学期期末考査					

地理歴史 科 2 年 日本史探究 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	日本史探究	対象	特進文系	コース	単位数	4 単位
教科書	『詳説日本史 日本史探究』		出版社 山川出版社			
副教材	『日本史用語集 (A・B共用)』 (山川出版社)		『第10版詳説日本史図録』 (山川出版社)			
	『2023 新課程版ステップアップ日本史』 (啓隆社)					

1 学習の到達目標

① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の趣旨	歴史的資料を収集し、資料から必要な情報を読み取る技能や、課題解決に必要な知識を身に付ける。	歴史的資料の特性を踏まえ、読み取った情報から、その時代的・地域的特色を多面的・多角的に考察し、仮説などを表現できる。	我が国の歴史の学習に主体的に臨み、より深い学びを得るための工夫を積極的に行う。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習等) 第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化のはじまり 2 農耕社会の成立 第2章 古墳とヤマト政権	<ul style="list-style-type: none"> 予習復習の体験学習をする。日本史学習のモデルスタイル等の説明を理解する。 考古学的成果により日々新たな発見が加わる可能性を意識する。 大和政権の発展を、朝鮮半島諸国の動きと関連付けて学ぶ。 資料を用い、文献を踏まえて古代社会に触れる。 	○	○	○	13
5	1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷 第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 1学期中間考査	<ul style="list-style-type: none"> 聖徳太子の政治、大化の改新以降の政治と律令国家体制、奈良時代の政治を史料もまじえて学ぶ。 天皇中心の中央集権国家建設を目指していることを理解する。 資料を活用し、文化の特色について学ぶ。 桓武・嵯峨天皇の政治改革の特色と、藤原氏が他氏排斥によって政権を獲得したことを学ぶ。 	○	○	○	14
6	3 律令国家の文化 4 律令国家の変容 第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士 第II部 中世	<ul style="list-style-type: none"> 遣唐使の廃止が、文化に影響を及ぼしたことを理解する。 後三条天皇の政治が院政へ発展していくことを 	○	○	○	17

7	第5章 院政と武士の躍進	学ぶ。 ・武士が政権を握るまでに至った背景や影響を理解する。	○	○	○	2
8	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権					1
9	1学期期末考査 学力考査		○	○	○	16
10	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	・北条氏による執権政治の成立と発展の過程について学ぶ。 ・元寇後の御家人体制の動揺と鎌倉幕府の滅亡、建武の新政から室町幕府の成立と全盛期について学ぶ。 ・建武の新政を通して鎌倉幕府から室町幕府への過渡期の政治状況を理解する。 ・幕府が衰退していった、原因と背景について学ぶ。	○	○	○	16
11	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化	・室町文化は日本の伝統芸術の源であることを理解する。	○	○	○	16
12	2学期中間考査 4 戦国大名の登場	・各地の戦国大名の支配の特徴を、史料をまじえながら学ぶ。	○	○	○	
1	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け 1 織豊政権 2 桃山文化	・織田信長、豊臣秀吉による天下統一までの過程について理解する。	○	○	○	4
2	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	・史料をまじえ、江戸初期の外交と鎖国に至るまでの経緯とメリット・デメリットを考える。	○	○	○	11
3	2学期期末考査 学力考査 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。 ・江戸時代に発展した町人文化を学ぶ。	○	○	○	14
	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 ・文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。	○	○	○	2
	3学期期末考査					

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論しようとする。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評 価 の 観 点			時 間 数
			a	b	c	
4	ガイダンス（体験学習等）	予習復習の体験学習をする。			○	1
	第1部 第1章 自然環境					
	1 地形	営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し、人間生活との関わりを考察する。	○	○	○	9
5	2 気候	気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し、人間生活への影響を考察する。	○	○	○	9
	【1学期中間テスト】					
6	3 日本の自然環境	日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに、防災のあり方を考察する。	○	○	○	7
7	4 地球環境問題	成因や特徴、地域的な分布を大観し、各事例を考察する。	○	○	○	6
	第1部 第2章 資源と産業					
	1 農林水産業	農業地域区分やその現状と課題、及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	12
	【1学期期末テスト】					
8	3 エネルギー・鉱産資源	エネルギー資源の利用と分布、鉱産資源の分布を考察する。	○	○	○	7
9	4 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題を大観し、その現状を理解するとともに、生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	7
	5 工業	工業の発達や立地、世界の工業地域や、世界の工業の現状と課題、及び日本の工業の課題を考察する。	○	○	○	7
	6 第3次産業	現代世界の第3次産業の発展と、世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	第1部 第3章 交通・通信と観光、貿易					
	1 交通・通信	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	○	○	○	4
	2 観光	観光産業の発達による変化を考察する。	○	○	○	3
	【2学期中間テスト】					
	第1部 第4章 人口、村落・都市					
	1 人口	世界人口の分布の特色や動態、人口構成や人口転換を考察する。	○	○	○	7
11	2 人口問題	世界の人口問題を大観し、発展途上国、先進国、日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	5
	3 村落と都市	村落・都市の立地や発達・機能や、日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	6
12	4 都市・居住問題	世界の都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみ	○	○	○	5

	第2部 第2章 現代世界の諸地域	を、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。				
	11 オーストラリアと ニュージーランド	オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	【2学期期末テスト】					
1	9 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
2	1 中国	中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	3 ASEAN 諸国	ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
3	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理探究	対象	進学文系	コース	単位数
教科書	新詳地理探究, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理探究演習ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

<p>① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>② 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論しようとする。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容 「知識・技能」：「思考・判断・表現」：「主体的に学習に取り組む態度」

= 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス（体験学習等）	予習復習の体験学習をする。			○	1
	第1部 第1章 自然環境					
	1 地形	営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。	○	○	○	9
5	2 気候	気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	○	○	○	9
	【1学期中間テスト】					
6	3 日本の自然環境	日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。	○	○	○	7
7	4 地球環境問題	成因や特徴，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。	○	○	○	6
	第1部 第2章 資源と産業					
	1 農林水産業	農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	12
	【1学期期末テスト】					
8	3 エネルギー・鉱産資源	エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。	○	○	○	7
9	4 資源・エネルギー問題	資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	7
	5 工業	工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。	○	○	○	7
	6 第3次産業	現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	第1部 第3章 交通・通信と観光，貿易					
	1 交通・通信	交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。	○	○	○	4
	2 観光	観光産業の発達による変化を考察する。	○	○	○	3
	【2学期中間テスト】					
	第1部 第4章 人口，村落・都市					
	1 人口	世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。	○	○	○	7
11	2 人口問題	世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	5
	3 村落と都市	村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	6
12	4 都市・居住問題	世界の都市・居住問題を大観し，その要因と発生のしくみを，各国の事例をもとに考え，解決策を考察する。	○	○	○	5

	第2部 第2章 現代世界の諸地域					
	11 オーストラリアと ニュージーランド	オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	【2学期期末テスト】					
1	9 アメリカ合衆国	アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
2	1 中国	中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
	3 ASEAN 諸国	ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	7
3	【学年末テスト】					

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史 科 2 年		地理探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理総合	対象	特進理系	コース	単位数 3単位
教科書	高等学校 新地理総合, 新詳高等地図			出版社	帝国書院
副教材	新編地理資料 2023 (とうほう), '23 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2023 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

① 社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
② 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
③ 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
④ 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深める。	地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想を考える。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト 単元テスト 小テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 評価の内容 知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度 = 1：1：1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 1-1-1 ○地形	○1年間の進め方 予習復習について ○営力的な視点からさまざまな地形の分布や成因を理解し，人間生活との関わりを考察する。				1
5	1-1-2 ○気候 【1学期中間テスト】	○気候要素と気候因子の関係から成り立ちを理解し，人間生活への影響を考察する。	○	○	○	7
	1-1-3 ○日本の自然環境		○	○	○	8
6	1-1-4 ○地球環境問題 1-2-1 ○農林水産業	○日本の地形と気候の特徴とこれらによる自然災害の特徴を理解するとともに，防災のあり方を考察する。 ○成因や特徴と対策，地域的な分布を大観し，各事例を考察する。 ○農業地域区分やその現状と課題，及び世界の中での日本の課題を考察する。	○	○	○	4
	1-2-2 ○食糧問題 【1学期期末テスト】	○世界の食料需給の地域的なかたよりを大観し，発展途上国，先進国，日本についての事例を考察する。	○	○	○	4
7			○	○	○	6
8			○	○	○	3
9	1-2-3 ○エネルギー・鉱産資源 1-2-4 ○資源・エネルギー問題	○エネルギー資源の利用と分布，鉱産資源の分布を考察する。 ○資源・エネルギー問題を大観し，その現状を理解するとともに，生産や消費が抱える課題を考察する。	○	○	○	4
	1-2-5 ○工業 1-2-6 ○第3次産業	○工業の発達や立地，世界の工業地域や，世界の工業の現状と課題，及び日本の工業の課題を考察する。 ○現代世界の第3次産業の発展と，世界と日本の観光業の特色を考察する。	○	○	○	4
10	1-3-1 ○交通・通信 1-3-2 ○観光 1-3-3 ○貿易と経済圏 【2学期中間テスト】	○交通や通信の発達による一体化と地域差を考察する。 ○観光産業を盛んにしようとする取り組みや，観光の特色や利点を考察する。 ○拡大を続けている貿易において，地域性や地域間格差について考察する。	○	○	○	3
	1-4-1 ○人口 1-4-2 ○人口問題	○世界人口の分布の特色や動態，人口構成や人口転換を考察する。 ○世界の人口問題を大観し，発展途上国，先進国，日本の人口問題の事例を考察する。	○	○	○	4
11	1-4-3 ○村落と都市	○村落・都市の立地や発達・機能や，日本の都市の特徴を考察する。	○	○	○	3
			○	○	○	6

12	1-4-4 ○都市・居住問題	○都市・居住問題を大観し、その要因と発生のしくみを、各国の事例をもとに考え、解決策を考察する。 ○オーストラリアとニュージーランドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	4
	2-2-11 ○オーストラリアとニュージーランド		○	○	○	5
【2学期末テスト】						
1	2-2-9 ○アメリカ合衆国	○アメリカ合衆国の自然、産業、文化などを理解・考察する。 ○中国の自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	5
2	2-2-1 ○中国		○	○	○	5
3	2-2-3 ○ASEAN 諸国	○ASEAN 諸国の自然、産業、文化などを理解・考察する。 ○インドの自然、産業、文化などを理解・考察する。	○	○	○	6
	III-2-4 ○インド		○	○	○	4
【学年末テスト】						

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地理歴史科 2年		世界史探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	世界史探究	対象	進学文系	コース	単位数 4単位
教科書	世界史探究		出版社 東京書籍		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十一訂版] (帝国書院) 世界史探究 詳説世界史 10分間テスト (山川出版社) 新世界史研究ノート [標準編] (啓隆社)				

1 学習の到達目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>
--

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べて、まとめる。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究する。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [序章] 世界史へのまなざし	・予習復習の体験学習をする。			○	1
		・現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ，世界史学習の意味や意義に気づく。	○	○	○	1
		・人類が自然環境に適応しながら進化したこと，及びその過程を理解する。	○	○	○	1
	[第1章] 古代文明の出現	・オリエント文明，インダス文明，及び中華文明の形成過程に触れ，古代文明の歴史的特質を理解する。	○	○	○	9
	【一学期中間考査】		○	○	○	1
	[第2章] 西アジアと地中海周辺	・古代オリエントの統一，古代ギリシアとヘレニズム世界の形成，都市国家ローマの形成と大帝国建設の過程，古代末期の社会と宗教，イラン系民族の諸活動，イスラーム世界の形成過程，及び中世初期の東西ヨーロッパの情勢に触れ，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。	○	○	○	22
	【一学期期末考査】		○	○	○	1
	[第3章] 南アジア	・アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化，社会，国家の形成過程に触れ，南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	8
	[第4章] 東南アジア	・東南アジアの地理的特質，文化，国家の形成過程に触れ，東南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	4
	[第5章] 東アジアと中央ユーラシア	・東アジアの地理的特質，古代国家・文化の形成過程，秦・漢帝国の形成・発展の過程，魏晉南北朝時代の変遷，隋・唐帝国の形成・発展の過程，及び中央ヨーロッパのトルコ化とイスラーム化の過程に触れ，日本を含む東アジア世界・中央ユーラシア地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	18
	【二学期中間考査】		○	○	○	1
	[第6章] アフリカ，オセアニア， 古アメリカ	・アフリカ大陸，オセアニア，及び南北アメリカ大陸の文明の形成過程に触れ，各地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	3

<p>[第7章] イスラーム世界の拡大 と繁栄</p>	<p>・イスラーム世界の拡大と複数の国家・地域への分裂過程, 及びイスラーム文明の広がりにつれ, 西アジア地域の変容と特質を理解する。</p>	○	○	○	9
<p>[第8章] 中世ヨーロッパ</p>	<p>・9世紀から15世紀にかけての西ヨーロッパ世界の動向につれ, 同世界の政治, 経済, 社会, 及び文化の変遷と, ルネサンスの特質を理解する。</p>	○	○	○	22
<p>【二学期期末考査】</p>		○	○	○	1
<p>[第9章] 中華世界の変容とモン ゴル帝国</p>	<p>・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりにつれ, 東アジア北方の諸民族の動向, 唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容, およびモンゴル帝国の興亡とその影響について理解する。</p>	○	○	○	17
<p>【学年末考査】</p>					1

地理歴史 科 2 年		世界史探究		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	世界史探究	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	世界史探究 詳説世界史		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [二十訂版] (帝国書院)		世界史B用語集 (山川出版社)		
	世界史探究 詳説世界史 10分間テスト (山川出版社)		新世界史研究ノート [応用編] (啓隆社)		
	短期攻略 大学入学共通テスト世界史B (駿台文庫)				

1 学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を身に付け、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ③ 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする。
評価の方法	定期考査	定期考査	学習課題 (問題集, プリント) 授業観察など

②成績評価の方法

評価の内容：「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を各100点満点計300点満点で算出し、それを3で割った点数(100点法)を評点とします。学年末に評定(5段階)にまとめます。

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス [序章] 世界史へのまなざし	・予習復習の体験学習をする。			○	1
		・人類が自然環境に適応しながら進化したこと，及びその過程を理解する。	○	○	○	1
		・現在と異なる過去や現在につながる過去に触れ，世界史学習の意味や意義に気づく。	○	○	○	1
	[第1章] 文明の成立と古代文明 の特質	・古代オリエントの諸文明，インダス文明，中華文明並びに東アジアの古代国家・文化，及び南北アメリカ大陸の文明の形成過程に触れ，古代文明の歴史的特質を理解する。	○	○	○	15
	【一学期中間考査】		○	○	○	1
	[第2章] 中央ユーラシアと東アジア世界	・内陸アジア地域に出現した遊牧民の文化，秦・漢帝国の形成・発展過程，魏晋南北朝時代の変遷，隋・唐帝国の形成・発展過程，及びトルコ・イラン系の遊牧国家と東アジア世界の関わりに触れ，中央ユーラシアと東アジア世界双方の歴史的特質並びに関係性を理解する。	○	○	○	15
	[第3章] 南アジア世界と東南アジア世界の展開	・アーリヤ人の進出以後の南アジアの文化，社会，国家の形成過程に触れ，南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	5
		・東南アジアの地理的特質，文化，国家の形成過程に触れ，東南アジア世界の歴史的特質を理解する。	○	○	○	3
	【一学期期末考査】		○	○	○	1
	[第4章] 西アジアと地中海周辺の 国家形成	・古代オリエントの統一，イラン系民族の諸活動，古代ギリシアとヘレニズム世界の形成過程，都市国家ローマの形成と大帝国建設の過程，及びキリスト教の成立とその拡大について触れ，西アジアと地中海周辺の歴史的特質を理解する。	○	○	○	18
	[第5章] イスラーム教の成立と ヨーロッパ世界の形成 東アジアと中央ユーラ シア	・イスラーム世界の形成過程，中世初期の東西ヨーロッパの情勢，及び西ヨーロッパにおける封建社会の形成過程に触れ，西アジア・北アフリカ並びに東西ヨーロッパ地域の歴史的特質を理解する。	○	○	○	15
	【二学期中間考査】		○	○	○	1

<p>[第6章] イスラーム教の伝播と 西アジアの動向</p>	<p>・イスラーム世界の拡大と複数の国家・地域への分裂過程、及びイスラーム文明の広がりにつれ、西アジア地域の変容と特質を理解する。</p>	○	○	○	8
<p>[第7章] ヨーロッパ世界の変容 と展開</p>	<p>・9世紀から15世紀にかけての東西ヨーロッパ世界の動向につれ、同世界の政治、経済、社会、及び文化の変遷と、その歴史的特質を理解する。</p>	○	○	○	16
<p>[第8章] 西アジア世界の展開と モンゴル帝国</p>	<p>・内陸アジア諸民族と周辺諸地域世界との関わりにつれ、東アジア北方の諸民族の動向、唐王朝滅亡後の東アジア世界の変容、およびモンゴル帝国の興亡とその影響を理解する。</p>	○	○	○	11
<p>【二学期期末考査】</p>		○	○	○	1
<p>[第9章] 大交易・大交流の時代</p>	<p>・14世紀から17世紀にかけてのアジア諸地域の動向につれ、明王朝の歴史的特質と東アジア世界への影響を理解する。</p>	○	○	○	7
<p>[第9章] 大交易・大交流の時代</p>	<p>・ヨーロッパの海洋進出と、それを発端とするアメリカ大陸の変容につれ、「世界の一体化」の歴史的特質を理解する。</p>	○	○	○	4
<p>[第10章] アジアの諸帝国の繁栄</p>	<p>・13世紀から18世紀までのアジア諸地域の動向につれ、イスラームを受容したトルコ・イラン・インド各地域の歴史的特質、及び清王朝の歴史的特質と東アジア世界への影響を理解する。</p>	○	○	○	8
<p>[第11章] 近世ヨーロッパ世界の 動向</p>	<p>・15世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向につれ、ルネサンスの歴史的特質、ヨーロッパ各地における主権国家体制の形成過程とその歴史的特質、及び17～18世紀の文化の特色について理解する。</p>	○	○	○	15
<p>【学年末考査】</p>		○	○	○	1

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民 科 2 年 倫理 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版				出版社	清水書院
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・最新図説倫理					

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を理解する。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索する。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成する。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出 グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能）、b（思考・判断・表現）、c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学習単元	主な学習内容と到達目標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス（体験学習など） 序章 人間とは何か	予習復習の体験学習をする。		○	○	1
	第1編 第1章 1心の機能と個性 2パーソナリティの形成と「私」	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。	○	○	○	1
5	第2章 1人間の活動を支える心 2認知のしくみ 3生涯にわたる発達	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○	4
	第2編 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 1神話から哲学へ—自然哲学者たち	・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚する。	○	○	○	8
6	(1学期中間考査) 2知と徳をめぐる問い—ソクラテス 3理想主義的なあり方—プラトン 4現実主義的なあり方—アリストテレス 5幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想	・ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察する。 ・プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。	○	○		
	第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教え—キリスト教 1ユダヤ教	・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察する。	○	○	○	7
7	2イエスの思想 3世界宗教への展開 第2節 戒律と平等の教え—イスラーム教 (1学期期末考査)	・イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。				
	第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第1節 智恵と慈悲の教え—	・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・仏教の人間観や人生観を理解し、生の苦悩とその克服といった課題を、自己の課題と重ね合わせて考察する。	○	○	○	8
8	仏教 1バラモン教	・仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。				
9	2仏陀の思想	・孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して、人間について				

	3 仏教とその後の展開 第2節 仁と礼の教え—儒教 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想	の見方や、望ましい人間関係の 在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・老子や荘子の思想における人間観を理解し、人間としての在り方生き方についての思索を深める。				
10	第3編 第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界 (2学期中間考査) 第2節 真理の認識—経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン	・人間の尊厳を論じたルネサンス、宗教改革、モラリストの思想を通して、幸福、愛、徳に着目して、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて考察する。	○	○	○	5
11	3 理性の光—デカルト 第3節 民主社会と倫理 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 (2学期期末考査)	・自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法、経験論と合理論を通して、真理や存在に着目して、人間の認識と経験を考察する。	○	○	○	6
12	第4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判 2 人間存在の地平—実存主義 3 世界と存在そのもの—現象学 4 公共性と正義 5 社会参加と他者への奉仕 (学年末考査)	・民主社会と人間の在り方や人間の尊厳、自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して、善、正義、義務に着目して、自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 ・民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して、善、正義、義務などに着目し、社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 ・自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して、幸福、愛、徳に着目し、人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察する。 ・世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して、真理、存在に着目し、世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。 ・社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して、善、正義、義務に着目し、主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深める。	○	○	○	7
1			○	○	○	10
2			○	○		
3			○	○		

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

公民 科 2 年 倫理 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	3 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版				出版社	清水書院
副教材	高等学校新倫理新訂版ワークノート・完全 MASTER 大学入試共通テスト倫理問題集・最新図説倫理					

1 学習の到達目標

- ①人間としての在り方生き方についての見方・考え方を理解する。
 ②現代の諸課題を追求したり解決に向けて構想したりする活動を行う。
 ③広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	<ul style="list-style-type: none"> 古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解する。 諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立した人間として、他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索する。 現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、理論的に思考し、説明したり対話したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者と共によりよく生きる自己を形成する。 多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深める。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート ノート提出 グループワーク 観察など 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期テスト ワークシート レポート, 課題提出 ノート提出 グループワーク 観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能」:「思考・判断・表現」:「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a (知識・技能), b (思考・判断・表現), c (主体的に学習に取り組む態度)

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評 価 の 観 点			時 間 数
			a	b	c	
4	ガイダンス (体験学習など)	予習復習の体験学習をする。		○	○	1
	序章 人間とは何か	さまざまな人間観の理解を通して人間の多様な在り方に思索を向けさせるとともに、人間存在への問いから現代の諸課題を探究することを理解する。	○	○	○	1
	第1編 第1章 1心の機能と個性 2パーソナリティの形成と「私」	心のあり方を科学的に探究してきた心理学の知見を手がかりに、欲求や感情、認知、発達に着目して、青年期の課題を踏まえ豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深める。	○	○	○	4
5	第2章 1人間の活動を支える心 2認知のしくみ 3生涯にわたる発達					
	第2編 第1章 哲学の始源：ギリシア思想	・西洋社会の根幹にあり、現代の合理主義の由来となる古代ギリシアの思想の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。	○	○	○	4
	1 神話から哲学へ—自然哲学者たち 2 知と徳をめぐる問い—ソクラテス 3 理想主義的なあり方—プラトン 4 現実主義的なあり方—アリストテレス	・古代ギリシアの理性をもつ人間という人間観の理解を通して、自分の考えを論理的、批判的に吟味する力や対話する力などを身につけることが大切であることを自覚する。 ・ソクラテスの思索が人間としての自覚の第一歩であることを自覚させ、各自の人生への問いと結び付けて考察する。 ・プラトン、アリストテレス、ヘレニズムの思想が人間の存在や価値をいかに論じたかを理解させ、良識ある公民とはいかに在るべきか、いかに生きるべきかという自己の課題について、多面的・多角的に考察する。	○	○	○	8
6	5 幸福をめぐる問い—ヘレニズムの思想 (1学期中間考査) 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第1節 愛の教え—キリスト教 1 ユダヤ教 2 イエスの思想 3 世界宗教への展開 第2節 戒律と平等の教え—イスラーム教 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第1節 智慧と慈悲の教え—仏教 1 バラモン教	・世界宗教としてのキリスト教とイスラーム教の知見を手掛かりに、幸福、愛、徳に着目して、人間としての在り方生き方についての思索を深める。 ・ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教の一神教が神と人間の関係をどのように捉えたか、相互の比較を通して理解を深める。 ・キリスト教の原罪や恩寵を特徴とする人間観や神の愛や隣人愛の理解を通して、自己の課題と結び付けて考察する。 ・イスラーム教の宗教的な義務や戒律などの倫理に関する諸概念の理解を通して、共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 ・世界宗教としての仏教の知見を手掛かりに、幸福、	○	○	○	7
			○	○	○	8
			○	○		5

	2 仏陀の思想	愛, 徳に着目して, 人間としての在り方生き方についての思索を深める。					
7	3 仏教とその後の展開 第2節 仁と礼の教え—儒教 1 儒家の教え 2 儒教の展開 3 道家の思想 (1 学期期末考査)	・ 仏教の人間観や人生観を理解し, 生の苦悩とその克服といった課題を, 自己の課題と重ね合わせて考察する。 ・ 仏教の生命あるもの全てに対する慈悲の教えを通して, 共同体の在り方や人間相互のつながりについて自己の課題と結び付けて考察する。 ・ 孔子や孟子の言行や宋学の思想の理解を通して, 人間についての見方や, 望ましい人間関係の在り方について自己の課題と結び付けて思索を深める。 ・ 老子や荘子の思想における人間観を理解し, 人間としての在り方生き方についての思索を深める。	○	○	○	6	
	第3編 第1節 人間の尊厳 1 ルネサンスとヒューマニズム 2 宗教改革と人間の内面 3 人間の偉大と限界	・ 人間の尊厳を論じたルネサンス, 宗教改革, モラリストの思想を通して, 幸福, 愛, 徳に着目して, 人生への問いや人間の存在や価値について, 自己の課題と結び付けて考察する。	○	○	○	7	
8	第2節 真理の認識—経験論と合理論 1 近代科学の思考法 2 事実と経験の尊重—ベーコン	・ 自然と人間との関わりや世界を捉える知の在り方を論じた近代科学の思考法, 経験論と合理論を通して, 真理や存在に着目して, 人間の認識と経験を考察する。	○	○		5	
9	3 理性の光—デカルト 第3節 民主社会と倫理 1 社会契約説と啓蒙思想 2 人格の尊厳と自由—カント 3 自己実現と自由—ヘーゲル 4 幸福と功利 5 創造的知性と幸福 (2 学期中間考査)	・ 民主社会と人間の在り方や人間の尊厳, 自己実現と幸福を論じた近代の諸思想を通して, 善, 正義, 義務に着目して, 自己の価値観を確立するとともに他者の価値観を尊重することの大切さを理解し, 社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。 ・ 民主社会における人間の在り方を論じた現代の諸思想を通して, 善, 正義, 義務などに着目し, 社会の在り方と人間としての在り方生き方について考察する。	○	○	○	7	
10	第4節 現代社会と個人 1 資本主義社会への批判	・ 自己実現と幸福を論じた実存主義の思想を通して, 幸福, 愛, 徳に着目し, 人生への問いや人間の存在や価値について自己の課題と結び付けて考察する。	○	○	○	9	
	2 人間存在の地平—実存主義	・ 世界を捉える知の在り方を論じた現象学を通して, 真理, 存在に着目し, 世界と人間の在り方について自己の課題と結び付けて考察する。	○	○	○	5	
11	3 世界と存在そのものへ—現象学 4 公共性と正義	・ 社会参加と奉仕を实践した先人たちの事例を通して, 善, 正義, 義務に着目し, 主体的に社会に参加することの大切さについて理解を深める。	○	○	○	5	

	5 社会参加と他者への奉仕 (2 学期期末考査)					
12	第4編					
	第1章 日本の風土と精神文化	<ul style="list-style-type: none"> 日本人の人間観、自然観、宗教観の特質を、日本人の心情や考え方と風土との関わり、また日本的な美意識や自然との関わりに着目して、日本人としての自己意識と結び付けて、理解する。 外来思想である仏教を、日本独自の受容やその思想の形成と発展を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 外来思想である儒教を、江戸時代における儒学諸派の形成を通して、それらが日本人の思想形成にどのように影響を及ぼしたかを理解する。 古代の精神の究明に努めた国学が、古代の日本人の心情と考え方をどのように捉えたかを理解する。 	○	○	○	6
1	第1節 日本人の人間観・自然観・宗教観					
	1 風土と日本人の生活					
	2 日本における神の観念					
2	3 神と仏の出会い					
	第2節 日本人の仏教受容					
3	1 古代仏教の思想					
	2 鎌倉仏教の思想					
	第3節 近世社会の思想					
	1 儒教の伝来と朱子学					
	2 陽明学					
	3 古学					
	4 国学と日本文化 (学年末考査)					5

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

普通科 2年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	進学文系	コース	単位数 2 単位
教科書	『高等学校 政治経済』		出版社 清水書院		
副教材	『高等学校 政治経済 ワークノート』 (清水書院) ・ 『政治・経済資料 2023』 (とうほう)				

1 学習の到達目標

- ① 広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養う。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。
- ③ 資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- ④ 現実社会の複雑な課題を把握し、構想する力、公正に判断する力、合意形成や社会参画に向かう力など、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
- ⑤ 公民として自国を愛し、平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の内容	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について、基礎的基本的な知識を身に付け、理解を深める。また諸資料から課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付ける。	現代日本における政治・経済の諸課題およびグローバル化する国際社会の諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする。また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとする。
評価の方法	定期考査 学力テスト 小テスト レポート 授業観察など	定期考査 学力テスト レポート 授業観察など	学習課題 ワークシート レポート ノート 授業観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 「知識・技能：思考」「判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」 = 1 : 1 : 1

3 学習計画

※評価の観点：a（知識・技能），b（思考・判断・表現），c（主体的に学習に取り組む態度）

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	評価の観点			時間数
			a	b	c	
4	ガイダンス 第1編 現代日本の政治・経済 第1章 現代政治のしくみと日本 1 政治とはなにか 2 法とはなにか 3 現代民主政治へのあゆみ と基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ・年間進捗を確認し，体験学習を通じて学習方法を学ぶ。 ・一年次の学習内容を発展させに現代政治について理解を深める。 ・法は社会規範の一つであり，国家による強制を伴う点で道徳や慣習とは異なることを理解する。また法は個人や集団の権利を擁護すると共に社会の秩序を維持する機能を有していることを理解する。 	○		○	1
5	4 議会制民主主義と世界の政治体制 (一学期中間考査)		○	○	○	19
	5 日本国憲法の成立と基本原理 6 基本的人権と新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法が保障している基本的人権の確立の歴史的背景，経緯，政治制度との関連について考察する。 ・自由権的基本権，平等権，参政権について，理解する。 ・社会権的基本権について，近代から現代にかけての政府の機能の変化の過程で登場してきたものであることを理解し，教育，労働，福祉に関わる社会制度の整備と社会権的基本権の関連を考察する。 	○	○	○	
6	7 平和主義と安全保障 8 日本の政治機構 9 政党政治と選挙制度	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化に応じて求められる新しい人権について理解する。 ・日本国憲法の平和主義を理解するとともに，日本の安全保障と防衛について理解を深める。 ・国民主権，議会制民主主義，権力分立，議院内閣制，違憲審査制の概念や政治理論の理解を深める。 	○	○	○	
7	10 地方自治 (一学期期末考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治は住民自治と団体自治の下で行われ，民主政治の基盤をなすものであることを理解する。 	○	○	○	
8	第2章 現代の経済のしくみと日本 1 経済活動と経済主体 2 市場経済の機能と限界	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済や計画経済について理解する。 ・経済主体について理解し，これら経済主体間の相互関係が国民経済を構成していることを理解する。 ・市場の競争性が維持されている場合でも公共財の提供がされにくいことや市場の失敗があることを理解する。 ・情報の非対称性の観点から家計・企業・政府間の情報格差について理解する。 	○	○	○	
9	3 国民経済と景気変動 4 物価とその変動 5 金融のしくみとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・インフレ，デフレについて理解する。 ・経済成長と景気変動を図る様々な指標の特色を理解する。 ・金融とは経済主体間の資金の融通であることを理解する。 ・資金の需給は金融市場における金利の変化や株式市場と債券市場の動向によって調節されることを理解する。 ・金融市場における金利の動向が消費や貯蓄，投資行動に影響し 	○	○	○	

10	6 財政のしくみと働き (二学期中間考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ たり物価や株価、景気の変動に大きな役割を果たしていることを理解する。 ・ 金融業務の自由化や金利の自由化に伴う金融に関する経済環境の変化による国民経済や家計や企業に向けての影響について理解する。 ・ 有効需要政策の意味と役割、金融に関する技術変革について理解し、これからの社会に及ぼす影響を考える。 ・ 財政を国家財政と地方財政の双方から把握し、両者の役割分担や連携の在り方について考え、望ましい財政の在り方について考える。 	○	○	○	
11	7 日本経済のあゆみ 8 企業の活動と役割 9 労働問題と労働環境の変化 10 社会保障制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業は、提供された生産要素を結合して生産活動を行うことを理解する。 ・ 日本の労使関係の特色や、勤労の権利と義務、労働基本権の保障、労働条件の改善、労働組合の役割について理解する。 ・ 中小企業にはベンチャー企業のように経済的に大きな役割を果たしているものがある一方で、下請けとして大企業との間には是正すべき格差社会が存在しているということを理解する。 ・ 医療や年金といった社会保障費の財政負担が大きな問題となっていることを日本の社会保障制度の歩みや特色とともに理解する。 	○	○	○	
12	11 農業と食糧問題 (二学期期末考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業問題としては、日本の食料自給率が他の先進国とくらべて低く、日本の農業の体質強化が課題とされていることを理解する。 	○	○	○	
1	第3章 現代日本の諸課題 1 地域社会の自立と中央政府の役割とはなにか？ 2 持続可能な社会保障制度は実現できるか？ 3 多様な働き方ができる社会とはどのような社会か？ 4 安全・安心な社会を実現するには？ 5 歳入・歳出両面での財政健全化とは？ (三学期期末考査)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場経済においては市場の失敗として環境破壊があることを外部不経済の視点から理解する。 ・ 地域社会の特徴と課題を理解し、課題解決に向けて地域社会が取り組むべきことと中央政府が果たすべき役割を考察し政策を提言する。 ・ 社会保障制度の特徴と課題を理解し、課題解決に向けた政策を提言する。 ・ 雇用の変化や労働時間の変化ワークライフバランスについての特徴と課題を理解し、課題解決に向けた政策を提言する。 ・ 安全で安心な社会を阻む要因を考察し、望ましい社会の在り方を考察し、望ましい社会の建設に向けた政策を提言する。 ・ 財政の特徴と課題を理解し、持続可能な財政の実現に向けた政策を提言する。 	○	○	○	18

地理歴史 科 3 年		地理 B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	スポーツ コース	単位数	4 単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院) , 新詳地理 B ノート (帝国書院)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や過程を適切に表している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・1年間の進め方 予習復習について ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。	1 1
	III-2-4 ○南アジア地誌	・南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	・西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
5	III-2-6 ○アフリカ地誌	・アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
	<1 学期中間テスト>		
	III-2-7 ○ヨーロッパ地誌	・ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	10
6	III-2-8 ○ロシア地誌	・ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	7
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	・ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
7	<1 学期期末テスト>		
8	*基礎学力到達度テスト問題演習	・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	15
9	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
10	<2 学期中間テスト>		
11	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
	<2 学期期末テスト>		
12	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	9

地理歴史 科 3 年						地理 B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	進学文系	コース	単位数	5単位			
教科書	新詳地理B	新詳高等地図	出版社		帝国書院				
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2022 (帝国書院), 新詳地理Bノート (帝国書院)								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や過程を適切に表している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取りをし、図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト ・課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時間数
4	ガイダンス	・1年間の進め方 予習復習について	1
	学習方法習得体験学習	・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。	1
5	III-2-4 ○南アジア地誌	・南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	・西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-6 ○アフリカ地誌	・アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8

	<1 学期中間テスト>		
	Ⅲ-2-7		
6	○ヨーロッパ地誌	・ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	10
	Ⅲ-2-8		
	○ロシア地誌	・ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	7
	Ⅲ-2-10		
7	○ラテンアメリカ地誌	・ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
	<1 学期期末テスト>		
8	*基礎学力到達度テスト問題演習	・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	15
9	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
10	<2 学期中間テスト>		
11	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
	<2 学期期末テスト>		
12	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	9

地理歴史科 3年		地理B		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理B	対象	特進理系	コース	単位数 3単位
教科書	新詳地理B 新詳高等地図		出版社 帝国書院		
副教材	新編地理資料 2022 (とうほう), '22 新地理の研究 (啓隆社), 地理統計要覧 2022 (二宮書店) 地理B用語集 (山川出版社), ウィニングコンパス地理 (とうほう)				

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域について歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したり、国際社会の変化を踏まえて公正に判断してその結果や過程を適切に表している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

- ①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。
 評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス	○1年間の進め方 予習復習について	1
5	III-2-6 ○アフリカ地誌	○アフリカの地誌を多様性に着目して理解する。	5
	III-2-7 ○ヨーロッパ地誌 <1学期中間テスト>	○ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	10

6	III-2-8 ○ロシア地誌	○ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	4
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	○ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	6
7	I-1-1 ○地理情報と地図 ・現代世界の地図	○現代の地図や身近な地図について理解する。	6
8	<1 学期期末テスト>		
9	I-1-1 ○地理情報と地図 ・現代世界の地図	○地図と地球儀の違いを理解し、地図の描画法を学ぶ。	3
10	I-1-2 ・地図の種類と利用	○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。	8
11	I-2 ○地図の活用と地域調査 <2 学期中間テスト>	○地形図の読図について理解し、読図力を身に付ける。	5
12	*大学入学共通試験対策問題演習 <2 学期期末テスト>	○大学入学共通試験に向けての問題演習を行う。	20

地理歴史 科 3 年						地理 A		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	地理A	対象	進学理系	コース	単位数	2単位			
教科書	高等学校 新地理A, 新詳高等地図			出版社	帝国書院				
副教材	新詳地理資料 COMPLETE 2023 (帝国書院)								

1 学習の到達目標

- ① 現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて考察し, 現代世界の地理的認識を養う。
- ② 地理的な見方や考え方を培い, 国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め, それを意欲的に追究し国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし, それを地域性や歴史的背景, 日常生活との関連を踏まえて多面的・多角的に考察し, 国際社会の変化を踏まえて公正に判断して, その過程や結果を適切に表している。	地図や統計, 画像など地域に関する諸資料を収集し, 有用な情報を選択して, 読み取ったり図表にまとめる。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追及の方法を理解し, その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動への姿勢 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動における発言内容や態度 ・定期テスト ・小テスト

②成績評価の方法

①の評価の方法によって, 学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ガイダンス 1-1-1 ○地球上の位置と国家	○1年間の進め方 予習復習について [学習内容] 地図と地球儀 図法 時差 領域 国家 [ねらい] 地球に関する基礎事項を学ぶ。	1 7
5	1-1-2 ○グローバル化が進む世界 <1学期中間テスト>	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光 [ねらい] グローバル化を貿易, 交通と通信などから捉える。	6
	1-1-2 ○グローバル化が進む世界	[学習内容] 貿易 交通と通信 観光 [ねらい] グローバル化を貿易, 交通と通信などから捉える。	2
6	1-2-1 ○人々の生活と地形 7 <1学期期末テスト>	[学習内容] プレートテクトニクス 大地形 小地形 [ねらい] 大地形, 小地形の形成要因を理論的に学習する。	10
8	1-2-2 9 ○人々の生活と気候	[学習内容] 気候区分 地域特性 植生 土壌 人々の生活 [ねらい] 気候要素など, 気候に関する基礎事項を理解する。	8
10	1-2-3 ○人々の生活と産業・文化 <2学期中間テスト>	[学習内容] 農業 工業 生活と文化のかかわり [ねらい] 生活と文化のかかわりを産業面から捉える。	4
	1-3-11 ○オーストラリアの生活・文化	[学習内容] オーストラリアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6
11	1-3-9 ○アングロアメリカの生活・文化	[学習内容] アングロアメリカの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6
12	<2学期期末テスト> 1-3-3 ○東南アジアの生活・文化	[学習内容] 東南アジアの自然, 産業, 文化 [ねらい] 地域の特徴を, 地誌的な見方・考え方で理解する。	6

地歴科 3年 世界史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史B	対象	進学文系	コース	単位数 4 単位
教科書	詳説世界史B [改訂版]		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [十九訂版] (帝国書院) ゼミナール世界史 (浜島書店) 詳説世界史10分間テスト [改訂版] (山川出版社) 世界史B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめる。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。 ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。	1 1
5	[第9章] 近世ヨーロッパ世界の展開 【一学期中間考査】	・17世紀から18世紀までのヨーロッパ世界の動向とアメリカ・アフリカとの関係に触れ、「絶対王政」や啓蒙専制君主の下でのヨーロッパ各国の動向、各国の海外進出の特質、及び17～18	9

		世紀の社会と文化の特色について理解する。	10
	[第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ独立革命およびフランス革命の背景と展開、影響について理解する。	13
6	[第11章] 欧米における近代国家の発展	・19世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ、ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色、ラテンアメリカ諸国の独立、及び19世紀の欧米文化について理解する。	12
	【一学期期末考査】		
7			
	[第12章] アジア諸地域の動揺	・西アジア（オスマン帝国・アラブ世界）、南アジア（インド）、東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ、ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と、それに端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。	12
8			
9			
	[第13章] 帝国主義とアジアの民族運動	・ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国、ラテンアメリカ地域の動向に触れ、帝国主義の背景・展開・国内政治の様子、及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。	15
	【二学期中間考査】		
10	[第14章] 二つの世界大戦	・総力戦としての二つの世界大戦を中心に、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。	15
	[第15章] 冷戦と第三世界の自立	・米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などに触れ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について理解する。	9
11			
	[第16章] 現代の世界	・市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。	8
	【二学期期末考査】		
12	まとめ		

※学習状況により、進捗・内容を変更することがあります。

地歴 科 3 年 世界史 B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	世界史 B	対象	特進文系	コース	単位数 3 単位
教科書	詳説世界史 B [改訂版]		出版社 山川出版社		
副教材	最新世界史図説タペストリー [十九訂版] (帝国書院)		ゼミナール世界史 (浜島書店)		
	短期攻略大学入学共通テスト対策世界史 B (駿台文庫)		世界史 B 用語集 (山川出版社)		

1 学習の到達目標

① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき、地理的条件や日本の歴史と関連付けて構造的に理解する。
② 世界の歴史における文化・文明の多様性・複合性を、諸地域世界の接触や交流に着目して考察する。
③ 世界の歴史の理解を踏まえて、現代社会の特質を様々な要素の関連の中で考察する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解
評価の内容	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追及するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代社会の特質を多面的・多角的に課題を考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめる。	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	学習活動への姿勢 ノート提出	学習活動における 発言内容 定期考査 単元テスト ノート提出	定期考査 単元テスト	定期考査 単元テスト 課題提出

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

【評価の内容】 定期考査 8割 平常点 (学習態度・単元テスト・ノート提出・課題提出) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時 間 数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習 [第10章] 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。 共通テスト、及び個別学力試験を念頭に置き、世界史の学習方法を体得する。 18世紀から19世紀までのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成の過程に触れ、産業革命の特色、アメリカ独立革命およびフランス革命の背景と展開、影響について理解する。 19世紀における欧米世界の歴史の大きな枠組みと展開に触れ、ウィーン体制下の各地における国民統一国家の形成、アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争の特色、ラテンアメリカ諸国の独立、及び19世紀の欧米文化について理解する。 	1 1 1 1 1 1
5	【一学期中間考査】 [第12章] アジア諸地域の動揺	<ul style="list-style-type: none"> 西アジア（オスマン帝国・アラブ世界）、南アジア（インド）、東アジア（清・朝鮮・日本）などの動向に触れ、ヨーロッパ諸国のアジアへの進出と、それら端を発したアジア諸地域の政治・社会・文化の変容について理解する。 	1 1
6	[第13章] 帝国主義とアジアの民族運動	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ諸国によるアフリカ・アジア・太平洋・カリブ海地域への進出とイスラーム世界やインド・中国、ラテンアメリカ地域の動向に触れ、帝国主義の背景・展開・国内政治の様子、及びアジア・アフリカでの民族運動について理解する。 	1 1
7	【一学期期末考査】 [第14章] 二つの世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 総力戦としての二つの世界大戦を中心に、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア（中国・インド・イスラーム世界）・アフリカの民族運動に触れ、20世紀前半の世界の動向と社会の特質について理解する。 	1 5
8			
9	【二学期中間考査】 [第15章] 冷戦と第三世界の自立	<ul style="list-style-type: none"> 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などに触れ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について理解する。 	9
10			
11	[第16章] 現代の世界	<ul style="list-style-type: none"> 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーを巡る問題などに触れ、1970年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について理解する。 	9
12	【二学期期末考査】 [共通テスト対策]	<ul style="list-style-type: none"> 共通テスト試験過去問題集・実践問題集を活用し、共通テストに向けての実力を養う。 	
1	[個別学力試験対策]	<ul style="list-style-type: none"> 二次試験受験者を対象に、実力を養う。 	
2			

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地歴科 3年 日本史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史A	対象	進学文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ② 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。
- ③ 第二次世界大戦と太平洋戦争の背景、経過、結果、及び影響を理解する。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査 (2回) 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時 間 数
4	ガイダンス	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1
	学習方法習得体験学習		1
5	第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。	3
	ロシア革命	・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	2
6	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
7	第一次大戦後の協調外交	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	2
	【一学期期末考査】		
8	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦後の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、及び関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	3
9	満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方への進出の背景と過程について触れ、日本が国際的に孤立したことを理解する。	3
10	三国防共協定と日中戦争	・日本がイタリア、ドイツに接近する過程を理解する。	3
		・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し、日中戦争への道が開かれたことを理解する。	
11	第二次世界大戦と太平洋戦争	・第二次世界大戦開戦の背景と経過について理解する。	5
	戦局の推移 戦時下の国民生活 連合国の動向と日本の敗戦	・太平洋戦争開戦の背景と経過について理解する。 ・戦争中の国内の様子について理解する。 ・太平洋戦争の終結について、連合軍による戦後構想の構築の過程を踏まえて理解する。	
	【二学期期末考査】		

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地歴科 3年 日本史A 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史A	対象	特進文系	コース	単位数 1 単位
教科書	高等学校 日本史A 人・くらし・未来			出版社	第一学習社
副教材	補助プリント資料				

1 学習の到達目標

- ① 第一次世界大戦を通じて帝国主義戦争を理解する。
- ② 第一次世界大戦後の協調外交と、中国に対する強硬外交を理解する。
- ③ 第二次世界大戦と太平洋戦争の背景、経過、結果、及び影響を理解する。

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめる。

【評価の内容】 定期考査 (2回) 8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主な学習内容と到達目標	時間数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・「学習のねらい」「授業の概要」「評価方法」について説明する。	1 1
5	第一次世界大戦と日本 ロシア革命	・第一次世界大戦の背景と、日本の参戦を理解する。 ・ロシア革命の背景と、革命が及ぼした影響を理解する。	3 2
6	大戦後のパリ講和会議	・パリ講和会議と中国、朝鮮の民族意識の高まりを理解する。	3
7	第一次大戦後の協調外交 【一学期期末考査】	・ワシントン会議で軍備制限や約束され、協調外交が進展したことを理解する。	2
8	日本外交の行き詰まり	・第一次世界大戦後の日本外交が強硬姿勢に変化したこと、及び関東軍による中国支配が進展したことを理解する。	3
9	満州事変と軍部の台頭	・関東軍による中国東北地方への進出の背景と過程について触れ、日本が国際的に孤立したことを理解する。	3
10	三国防共協定と日中戦争	・日本がイタリア、ドイツに接近する過程を理解する。 ・盧溝橋事件をきっかけに第2次国共合作が成立し、日中戦争への道が開かれたことを理解する。	3
11	第二次世界大戦と太平洋戦争 戦局の推移 戦時下の国民生活 連合国の動向と日本の敗戦 【二学期期末考査】	・第二次世界大戦開戦の背景と経過について理解する。 ・太平洋戦争開戦の背景と経過について理解する。 ・戦争中の国内の様子について理解する。 ・太平洋戦争の終結について、連合国軍による戦後構想の構築の過程を踏まえて理解する。	5

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地歴科 3年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)				
科目名	日本史B	対象	スポーツ コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』		出版社 山川出版社	
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『詳説日本史図録』 (山川出版)		『書き込み教科書詳説日本史改訂版』 (山川出版社)	

1 学習の到達目標

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。 ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。 ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。 |
|---|

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第3部 近世 第6章 幕藩体制の確立 3 幕藩体制の成立	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー 初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。南蛮貿易・江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。	12
5	第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 1学期中間考査 2 経済の発達 3 元禄文化	4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と美証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。	13

6	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	・享保の改革・寛政の改革・田沼政台の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。	1 7
	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	・大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に反幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大いに役立ったことを学習する。	
7	1学期期末考査		3
8	学力テスト		2
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	・開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が幕府派と一橋派に分かれ争ったこと、及び松田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 ・五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 ・基礎学力到達度テスト対策	1 6
1 0	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	・自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 ・大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 ・日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦御頭論に傾いていたことを学ぶ。 ・日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 ・日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。	1 4
1 1	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	・日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 ・近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。	1 5
1 2	6 第二次世界大戦 第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺	・第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて、変化する国際情勢を学ぶ。 ・西欧の帝国主義型発展の帰結として植民地争奪戦争が起きた。西欧社会を模範としてきた日本もその対立のなかに加わっていくことを学ぶ。 ・財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 ・朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも理解する。 ・保守一党優位の政治体制がもたらしたものを考える。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみなどがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討させる。 日中共同声明の意義について検討する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることをはっきりと理解する。	6

					98
地歴科 3年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史B	対象	進学文系	コース	単位数 5 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』 出版社 山川出版社				
副教材	『日本史B用語集』 (山川出版社) 『詳説日本史図録』 (山川出版) 『ゼミナール日本史』 (浜島書店)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー ・幕府の衰退が戦国大名の出現をまねき、信長・秀吉によって戦乱の時代に終止符が打たれたことを理解する。 ・初代将軍徳川家康・2代将軍秀忠・3代将軍家光の政治、史料をまじえながら諸制度の特色を学ぶ。江戸初期の外交と鎖国に至るまでの原因・経過・結果・意義について学ぶ。 ・この時代幕藩体制が確立したこと。鎖国のメリット・デメリットを理解する。 ・4代家綱・5代綱吉・正徳の治などの政治を学ぶ。 ・武断政治から文治政治へ転換したこと。財政改革が幕府の今後の課題になることなどを理解する。	1 16

5	2 経済の発達 1学期中間考査 3 元禄文化 第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。 貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。 元禄文化の特色である現実主義と実証主義の傾向を文学や学問の発達から学習する。享保の改革・寛政の改革・田沼政治の特色をまとめ比較し、その相違を学ぶ。 	15
6	2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> 大塩の乱の発生や天保の改革の失敗は幕府権力の衰退を示すことを学習する。古典研究が始まる国学が次第に幕府の指導的理念になっていくこと、および藩校・私塾・寺子屋が教育の発達に大いに役立ったことを学習する。 	22
7	1学期期末考査		4
8	学力テスト		2
9	第4部 近代・現代 第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 基礎学力到達度テスト	<ul style="list-style-type: none"> 開国問題と将軍継嗣問題が複雑に絡み合い、大名が幕府派と一橋派に分かれ争ったこと、及び松田門外の変以後、朝廷も巻き込んだ公武合体派と尊王攘夷派に分かれて争った経緯を学習する。 五箇条の誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建制を比較することにより新政府の特質を学ぶ。 基礎学力到達度テスト対策 	20
10	3 立憲国家の成立と日清戦争 2学期中間考査 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発達 6 近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を学ぶ。 大日本帝国憲法の制定過程と内容、及び日本国憲法との相違を学ぶ。 日露戦争は帝国主義国間の対立を背景に戦われたこと、日本国民は開戦無罪論を傾いていたことを学ぶ。 日本資本主義の発展とともに社会問題があらわれたことを学ぶ。 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 	18
11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを学ぶ。 近代国家の建設とともに西欧文化の影響を受け、文学・美術・建築様式などに新しい傾向が見られるようになったことを学ぶ。 	18
12			6
			121

地歴科 3年 日本史B 年間授業計画 (シラバス)					
科目名	日本史B	対象	特進文系	コース	単位数 4 単位
教科書	『詳説日本史 改訂版』				出版社 山川出版社
副教材	日本史の整理と演習ウィニングコンパス (とうほう), 詳説日本史図録 (山川出版) 日本史B用語集 (山川出版社)				

1 学習の到達目標

- ① 我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界史と関連付けて総合的に考察する。
- ② 我が国の伝統と文化の特色についての認識を深める。
- ③ 歴史的思考力を培い国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

2 評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の趣旨	我が国の歴史の展開に関心を持ち、また、意欲的に追求して、日本国民として国際社会に主体的に責任を果そうとする。	我が国の歴史の展開から課題を見だし国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し、我が国の文化と伝統の特色についての認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。	我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめる。	我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連付けて、総合的に理解し、知識を身に付ける。
評価の方法	ノート提出 問題集提出、小テスト	定期考査 課題プリント、小テスト	定期考査 課題プリント	定期考査 課題プリント

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・ノート・プリント・問題集など) 2割

3 学習計画

月	学習単元	主な学習内容とねらい	時間数
4	ガイダンス (体験学習等) 第7章 幕藩体制の展開 2 経済の発達 3 元禄文化	日本史学習のモデルスタイル等のレクチャー ・江戸時代の農業・産業・流通機構や、そのなかから発展した町人文化を学ぶ。貨幣経済の発達が政治・文化にもたらした影響を理解する。	13
5	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 1学期中間考査	・貨幣経済の発達や政治・文化にもたらした影響を理解する。 ・社会・経済の発展により政治・財政改革が盛んに行なわれるが、大塩の乱や天保の改革の失敗により幕府権力が衰退していく過程を学ぶ。 ・工場制手工業 (マニュファクチュア) の発達など軽工業の分野における経済の発達と、藩財政の建て直しから雄藩と呼ばれ幕末に反幕勢力の中心となる藩の発生について理解する。	

	4 化政文化	<ul style="list-style-type: none"> 文学は当時も世相を表す鏡であった。優れた芸術作品は海外に影響を与えた。洋学は国内の多くの知識人に影響を与え、独自のものを生み出した。 儒学や藩校・私塾・寺子屋は教育の発達を促し、多くの人材を輩出したことを理解する。 	15
6	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵	<ul style="list-style-type: none"> 長州藩と薩摩藩の行動を対比させながら、尊攘運動を考察させる。また、尊攘派志士の背後に豪農豪商層がいたことを理解する。 五箇条の御誓文、政体書のもつ開明性と五榜の揭示の封建性の矛盾を検討することによって新政府の性格を理解する。 	
7	3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 1学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 自由民権運動の思想的背景及びその階級的性格、意義を考察する。日露戦争は帝国主義国間の対立を背景にして戦われたこと、及び日本国民の大多数は支配層の開戦強硬論に動かされていたことを説明する。日本資本主義の発展とともに社会問題が現れたことを理解する。 	18
8	6 近代文化の発達	<ul style="list-style-type: none"> 日清戦争後、日本の対外膨張を支える国家主義が思想界の主流になったことを理解する。 	9
8	学力テスト		1
9	第10章 近代日本とアジア 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民文化	<ul style="list-style-type: none"> 政党・ジャーナリストは民衆の政治的成長を背景に護憲運動を起こし、閥族支配を動揺させたことを理解する。 第2次護憲運動の結果、護憲三派内閣が成立し、普通選挙法が成立したが、無産階級の台頭を恐れる政党は治安維持法を制定して社会運動に弾圧を加えたことを理解する。 民衆勢力の台頭によって文化が少数の特権階級の独占物ではなくなり、いわゆる大衆文化が成立した点に留意する。 	18
10	4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 2学期中間考査 6 第二次世界大戦	<ul style="list-style-type: none"> 戦後恐慌・金融恐慌・世界恐慌と次々に恐慌に見まわれ、ついに深刻な昭和恐慌に突入し、日本は対外侵略の道を歩むことになることを理解する。 満州事変に始まる日本の大陸進出の過程を通じて、世界の中における日本の立場が孤立していったことを理解する。 日本の中国進出政策がさらに南方進出政策へと拡大され、日中戦争から太平洋戦争へと展開していった過程について理解する。 	13
11	第11章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ 第13章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の動揺 2学期期末考査	<ul style="list-style-type: none"> 財閥解体と農地改革が日本の民主化にもつ政治的・経済的・社会的な意義を理解する。 朝鮮戦争に際して、特需を土台に日本経済の復興が進められ、同時に戦後初期における民主化に逆行するような動きが起きてきたことにも注目する。 保守一党優位の政治体制がどのような影響をもたらしたものを考察する。 経済の高度成長に伴って、国民生活の向上が見られた反面、経済成長のひずみがどのように現れ、どのような社会問題を生み出したか検討する。 日中共同声明の意義について理解する。 我々国民は、国家の主権者として、日本の進路を自主的な立場と態度をもって決定すべき重大な責任を担っていることを理解する。 	26
			112
12	演習		

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数
4	ガイダンス 学習方法習得体験学習	・1年間の進め方 予習復習について ・基礎学力到達度テスト受験を念頭に置き、地理の学習方法を体得する。	1 1
	III-2-4 ○南アジア地誌	・南アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
	III-2-5 ○西アジア・中央アジア地誌	・西アジア・中央アジアの地誌を多様性に着目して理解する。	8
5	III-2-6 ○アフリカ地誌	・アフリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
	<1 学期中間テスト>		
	III-2-7 ○ヨーロッパ地誌	・ヨーロッパの地誌を多様性に着目して理解する。	10
6	III-2-8 ○ロシア地誌	・ロシアの地誌を地域性に着目して理解する。	7
	III-2-10 ○ラテンアメリカ地誌	・ラテンアメリカの地誌を地域性に着目して理解する。	8
7	<1 学期期末テスト>		
8	*基礎学力到達度テスト問題演習	・基礎学力到達度テストに向けての問題演習を行う。	15
9	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
10	<2 学期中間テスト>		
11	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	15
	<2 学期期末テスト>		
12	*諸地域の抱える課題について	・諸地域の抱える課題について、系統地理的・地誌的の両面から考察していく。	9

地歴公民 科 3 年		現代社会		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	現代社会	対象	スポーツ	コース	単位数 2 単位
教科書	『現代社会』		出版社 東京書籍		
副教材	ライブ！現代社会 2021 (帝国書院), 要点マスター現代社会演習ノート (東京書籍)				

1 学習の到達目標

- ①人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断する力を養う。
- ②自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代社会の基本的問題と人間に関わる事項に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考察しようとする態度と平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	現代社会の基本的問題と人間に関わる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用して学び方を身に付ける。	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・小テスト・ノート・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4 月	ガイダンス 学習方法習得体験学習 第4章 現代の経済と国民福祉	・学習方法，年間進捗を確認する。 ・体験学習を通じて学習方法を学ぶ。	1 学期 25 時間	
5 月	1 経済のしくみ (1 学期中間テスト)	①経済社会の変容 ②現代の企業 ③市場経済のしくみ ④国民所得と経済成長 「産業革命」による技術革新に伴う社会の様々な変化や，企業，市場経済の仕組みについて理解する。価格の働き働きを理解し，独占や寡占，市場の失敗について考察する。経済指標，経済成長について理解し，景気変動について考察する。		
6 月	2, 変化する日本経済	⑤金融のしくみと働き ⑥中央銀行の役割と金融の自由化 ⑦政府の役割と財政 金融政策，財政制度について理解し，市場や金融，財政の課題について，幸福，正義，公正の観点から考察する。金融政策，財政制度について理解し，日本の財政をめぐる諸課題を考察する。		
7 月	(1 学期期末テスト)	①戦後復興と高度経済成長 戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。		
8 月		②産業構造の転換と国際経済環境の変化 ③経済のバブル化とその後 ④日本経済の現在 ⑤中小企業と農家		
9 月	2, 変化する日本経済	戦後の日本経済と高度経済成長の要因について理解する。石油危機を契機とした，産業構造の転換，プラザ合意について理解し，バブル景気発生から崩壊まで，そのしくみや要因，影響，対応について理解する。バブル景気崩壊後の日本経済について考え，日本経済が直面する現状と課題について考察する。		
10 月	(2 学期中間テスト)	日本の中小企業が抱える問題，農業問題，バブル景気崩壊後の日本経済について学び，日本経済が直面する現状と課題について考える。		
11 月	3, 豊かな生活の実現	①自立した消費者への道 ②労働者の権利 ③現代の雇用・労働問題 ④社会保障の役割 ⑤環境保全と循環型社会 消費者の権利と問題点，労働者の権利と問題点について理解し，雇用形態の実態と問題点について理解する。社会保障の意義を考え，日本の社会保障制度と抱える問題点について理解する。日本の公害の歴史，その変遷や対策について考える。		
12 月	(2 学期期末テスト) 視覚教材・グループ学習等	国際経済の仕組みと動向や現代の諸課題 について視聴覚教材やグループ学習を通じて主体的に学ぶ。		2 学期 31 時間

※理解度やその他都合の為，省略や変更，前後することもありうる。

公民 科 3 年 倫理 年間授業計画 (シラバス)						
科目名	倫理	対象	進学文系	コース	単位数	2 単位
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院	
副教材	高等学校新倫理新訂版ワーク・3ステップス倫理研究ノート問題集・最新図説資料集					

1 学習の到達目標

<p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高めようとする。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p>

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

A. 定期考査の点数8割

B. 平常点20点

- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
- ・学期ごとのワーク提出
- ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	社会契約説 ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム	・ホッブズ・ロック・ルソーの比較を通して理解を深める。 ・カント哲学を踏まえて観念論について理解する。 ・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス J. Sミル	5
5	第5節 個人と社会との関わり 社会主義 実存主義	・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／／唯物史観自己を見つめる キルケゴール／実存的交わりヤスパース ニヒリズムを超えて／神の死と超人 ニーチェ	7
6	第4編 第1章 日本の風土と外来思想の受容 <u>1 学期中間考査</u> 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学についても復習という観点で理解する。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想がどのように説かれたかを理解する。	9
7	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解する。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達について考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行動したかを考える。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのようにとらえたかを理解する。	9
	<u>1 学期期末考査</u> 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての自覚 新たな価値観の模索 現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕	・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自我へのめざめの動きを理解する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。	6
	第6節 現代における理性の問題 現代における理性の見直し	・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自我へのめざめの動きを理解する。 ・西歐に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。 ・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について学ぶ。他者への共感／マザー＝テレサとボランティア	8

8	科学観の変換 日本大学基礎学力到達度テスト 対策演習	生命への畏敬, 無意識の領域 ・経験的事実に基づく知識が, 確実な学問的知識であることを知る ・「生命への畏敬」とはどのような考えか; また, 社会福祉とは何かを考え, 今の民主社会の諸問題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代哲学が展開したのかを探る。実践演習(プリント) それぞれのテーマについて, 倫理の総復習として位置付け, プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ, 多角的に取り組み, 理解する。	7
9	2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理	『3ステップス倫理研究ノート問題集』を活用し, 出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み, 到達度テスト対策を行う。	
10	2学期期末考査		8
11		それぞれのテーマについて, 倫理の総復習として位置付け, プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ, 多角的に取り組み, 理解する。	7
12			

※学習状況により, 進度・内容を変更することがあります。

公民		科 3 年		倫理		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	倫理	対象	特進文系	コース	単位数	2 単位	
教科書	高等学校新倫理新訂版			出版社	清水書院		
副教材	完全 MASTER 大学入学共通テスト倫理問題集・最新図説資料集						

1 学習の到達目標

- | |
|---|
| <p>① 人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、人間としての在り方生き方について理解と思索を深める。</p> <p>② 人格形成に努める実践的意欲を高めようとする。</p> <p>③ 他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。</p> |
|---|

2 評価の観点・内容・方法, 及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価の内容	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成について関心を高め、人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつとともに、これらに関する諸課題を探究する態度を身に付け、人間としての在り方生き方について自覚を深める。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見だし、人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探求するとともに、良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用する。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を、他者と共に生きる主体としての自己確立の課題となげ理解し、自己形成に生かす知識として身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・ワークシート ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

- A. 定期考査の点数8割
- B. 平常点20点
- ・ノート記入を含めた授業態度や出席状況
 - ・学期ごとのワーク提出
 - ・夏・冬の課題提出など

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と 到 達 目 標	時間数
4	社会契約説 ドイツ観念論 功利主義 プラグマティズム 第5節 個人と社会との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ホッブズ・ロック・ルソーの比較を通して理解を深める。 ・カント哲学を踏まえて観念論について理解する。 ・最大多数の最大幸福 ベンサム／不満足なソクラテス ミル ・社会の進歩改善を目指した思想家の幸福観を考える。 	5
5	社会主義 実存主義 第4編	<ul style="list-style-type: none"> プラグマティズム／民主主義の実現と幸福デューイ 人間疎外の原因 マルクス／唯物史観自己を見つめる キルケ 	7
6	第1章 日本の風土と外来思想の受容 1学期中間考査 第1節 日本の風土と伝統 第2節 仏教の伝来と隆盛 1 仏教の移入 2 仏教の土着化	<ul style="list-style-type: none"> 死への存在 ハイデッガー／自由と責任 サルトル ・古代日本人の信仰や風土について理解を深め、江戸時代の国学についても復習という観点で理解する。 ・仏教と日本人の思想形成 ・奈良・平安・鎌倉仏教についてそれぞれ学習し、これを通して日本人の宗教観・思想形成がどのようになされたかを理解する。 ・江戸時代に儒教がどのように解釈されたか、また日本古来の思想がどのように説かれたかを理解する。 	9
7	第3節 儒教の日本化 1 儒教の伝来と朱子学 2 陽明学 3 古学 第4節 日本文化と国学 1 古典美の再発見 2 国学 第5節 近世庶民の思想 1 都市庶民の思想 2 農民の思想 第6節 西洋近代思想の受容 1 西洋文明との接触	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代までに形成された日本人の美意識について理解する。 ・「幽玄」「わび」「さび」について、能・茶の湯・俳諧と具体的な作品を通してその理念を理解する。 ・本居宣長を中心として国学について理解する。 ・石田梅岩の石門心学を通じて営利活動の肯定と経済活動の発達について考える。 ・安藤昌益、二宮尊徳 ・時代が大きく動いた幕末から明治にかけて、先人がいかに考え、行動したかを考える。 ・近代国家成立の過程において、先人が個人と国家の関係をどのようにとらえたかを理解する。 	9
	1学期期末考査 2 啓蒙思想と民権論 3 キリスト教の受容 4 国家主義の高まりと社会主義 5 近代的自我の成立 6 近代日本哲学の成立 7 近代日本の思想傾向への反省 第2章 現代日本と日本人としての自覚 新たな価値観の模索 現代日本と私たちの課題 第3編 5・6節 主体性の確立 他者への奉仕	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋近代思想をささえる精神としてのキリスト教を受け入れた先人の信仰と考え方を理解する。 ・近代化をすすめる明治期の日本のあり方について、国家主義や国粹主義、そして社会主義の立場で模索した先人の考え方を理解する。 ・文学作品を中心に、近代化を進めた明治大正期の日本人の近代的自我へのめざめの動きを理解する。 ・西欧に範を取った日本の近代化の中で、独自の思想の確立を求めて苦闘した思想家のあゆみを理解する。 	6
	第6節 現代における理性の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・坂口安吾や丸山真男の著作や活動を通して、第二次世界大戦後の日本の新たな価値観の模索について学ぶ。他者への共感／マザー＝テレサとボランティア 生命への畏敬、無意識の領域 ・経験的事実に基づく知識が、確実な学問的知識であることを知る ・「生命への畏敬」とはどのような考えか、また、社会福祉とは何かを考え 	3
			8

	現代における理性の見直し 科学観の変換	今の民主社会の諸課題を探る。 近代の理性主義に対する見直しや科学観の転換がどのように為されて現代哲学が展開したのかを探る。 実践演習(プリント) それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。	7
8	日本大学基礎学力到達度テスト 対策		
9	演習	出題範囲である第1編から第4編までの総復習と問題演習に取り組み、到達度テスト対策を行う。	8
	2学期中間考査 第5編 現代の諸課題と倫理	『完全 MASTER 倫理問題集』を活用し2年次より履修した全範囲の演習をおこなう。(2年次以降3年次7月までの履修完了範囲は夏季休暇中の課題とする)	7
	演習	それぞれのテーマについて、倫理の総復習として位置付け、プリントを活用しながら小論文対策も念頭に入れ、多角的に取り組み、理解する。 『完全 MASTER 倫理問題集』等を活用しながら大学入試共通テストに向けた全範囲の演習をおこなう。	
10	2学期期末考査		
11			
12			

※学習状況により、進度・内容を変更することがあります。

地歴公民 科 3 年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	進学文系	コース	単位数 3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	『高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート』 (清水書院)				

1 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- ② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
- ③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。
- ④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で主体的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとする。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4	・ガイダンス	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを確認する。 1年次に学習した内容の総復習（経済分野） 経済活動の意義／経済思想／経済主体／価格と市場／市場機構の限界	1 学期 35 時間	
5	第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国際 46 日本財政の課題 47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 現代企業の主要な形態や構造、諸問題について考察する。物価変動が暮らしに与える影響や、景気の安定に向けた、政府や中央銀行の政策について理解し、現代の財政政策、金融政策について考察する。 貨幣にはどのような役割があるか、具体的に理解させ金融について考える。また金融の自由化とは何か、金融の自由化によって何が変わったか、理解する。		
6	第2章 現代の日本経済 〈一学期中間考査〉	50 戦後の日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 日本の経済史について理解した上で、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業が日本経済の中で占めている地位と期待されている役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。 公害問題や環境問題についてその原因について理解しその対策について調べ学習やレポート提出によって主体的に考察する。 現代社会が抱える消費者問題、労働問題について理解し、その解決方法について調べ学習やレポート提出によって主体的に考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解し、日本の社会保障制度はどのような課題に直面しているか、財源と医療・介護・福祉サービスの質と量の確保の観点から考察する。		
7	第1編 現代の政治 第6章 国際政治と日本 〈一学期期末考査〉	28 国際社会の形成 29 国際法の進展 30 国際連盟／国際連合 31 国際連合の機能と課題 32 冷戦期の国際政治 33 現代の国際政治 34 核兵器と軍縮の動き 35 国際社会における日本の役割 国際社会形成の歴史や国際法の概念、国際政治における国際連合の役割について理解する。また、冷戦を経ての刻社債社会が抱える問題を理解しと、日本の役割について考察する。		
8	第2編 現代の経済 第3章 国際経済と日本	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割		
9		グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解させる。国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。第二次世界大戦後の国際通貨体制とIMFWTOについて理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。		
10	〈二学期中間考査〉	現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考察する。		
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		2 学期 45 時間
12	〈二学期期末考査〉			

理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。

地歴公民 科 3 年		政治経済		年間授業計画 (シラバス)	
科目名	政治経済	対象	特進文系	コース	単位数 3 単位
教科書	『高等学校 新政治・経済 新訂版』			出版社	清水書院
副教材	政治経済資料集 (とうほう) 高等学校 新政治・経済 新訂版ワークノート				

1 学習の到達目標

- ① 広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深める。
- ② 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解する。
- ③ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について主体的に考察する。
- ④ 現代における政治、経済、国際関係などにかかわる諸課題について公正に判断できる力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を養う。

2 評価の観点・内容・方法、及び成績評価の方法

①評価の観点・内容・方法

評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
評価の内容	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとする。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し、その知識を身に付ける。
評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・プリント ・レポート ・ノート提出 ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期テスト ・レポート ・グループワーク ・観察など

②成績評価の方法

①の評価の方法によって、学年末に評定にまとめます。

評価の内容 定期考査8割 平常点 (学習態度・課題など) 2割

3 学習計画

月	学 習 単 元	主 な 学 習 内 容 と ね ら い	時 間 数	
4	・ガイダンス 第2編 現代の経済 第1章 現代経済の特質	・今年度の学習の仕方等を確認する。また、受験に向けての心構えを確認する。 36 経済活動の意義 37 経済思想 38 経済主体 39 価格と市場 40 市場機構の限界 41 現代の企業 42 物価変動と国民生活 43 経済成長と景気変動 44 政府の経済的役割 45 租税と国債 46 日本財政の課題 経済活動とは何か、経済学者の思想に触れ、経済を学ぶ上での基本的考え方を学ぶ。経済主体について、価格の役割について理解する。需給曲線を理解し、「市場の失敗」について考察する。企業の最終的な目的と社会的責任について考察する。また株式会社について、その組織と特徴を理解する。	1 学期 35 時間	
5	〈一学期中間考査〉	物価変動と国民生活の関係について理解し、適切な財政政策と金融政策について考察する。経済指標、財政の基本的な仕組みについて、理解する。望ましい税制について考察するとともに国債発行による財源の調達必要性と問題点について理解する。		
6	第2章 現代の日本経済	47 貨幣の役割と金融 48 金融市場と金融政策 49 金融環境の変化 50 日本経済のあゆみ 51 農業と食糧問題 52 中小企業 53 情報化の進展・サービス産業 54 公害・環境問題 55 消費者問題 56・57 労働問題 58・59 社会保障制度 金融について理解する。金融政策とその効果について考察する。金融の自由化による現代社会の変化について理解する。 日本の経済史について理解し、日本が抱える諸問題について考える。第二次世界大戦後の農業政策の変遷、中小企業の地位と役割、情報化の進展とサービス産業の進展について考える。現代社会が抱える諸問題（公害・環境・消費者、労働）について理解し、その解決方法について考える。 世界の社会保障制度と日本の社会保障制度を比較しその概要を理解する。日本の社会保障制度は課題について考察する。		
7	〈一学期期末考査〉			
8	第3章 国際経済と日本	60 貿易と国際経済 61 貿易の意義と課題 62 国際収支の仕組みと現状 63 為替相場の仕組みと意義 64 戦後の国際経済 65 IMF・WTO 66 国際的な経済格差 67 地球環境問題 68 エネルギー問題 69 地域的経済統合 70 国際経済における日本の役割 グローバリゼーションの進展により各国経済間の相互依存と一体化が深まっている状況を、具体的な事例を通して理解する。 国際分業について理解し貿易の意義について考える。国際収支について理解する。 第二次世界大戦後の国際通貨体制と IMFWTO について理解するとともに、南南問題、南北問題、地域的経済統合について考察する。 現代社会が抱える地球規模の諸問題について考え、その解決方法について考察するとともに、日本の役割について考える。		
9				
10	〈二学期中間考査〉			
11	第3編 現代の政治・経済の諸課題	現代の諸課題について、グループワーク、レポート作成によって理解を深め、その解決方法について考察する		
12	問題演習 〈二学期期末考査〉	問題演習を通して知識の定着を図る。		2 学期 45 時間

理解度やその他都合の為、省略や変更、前後することもありうる。